

# 川上村遺跡詳細分布調査報告書

1984

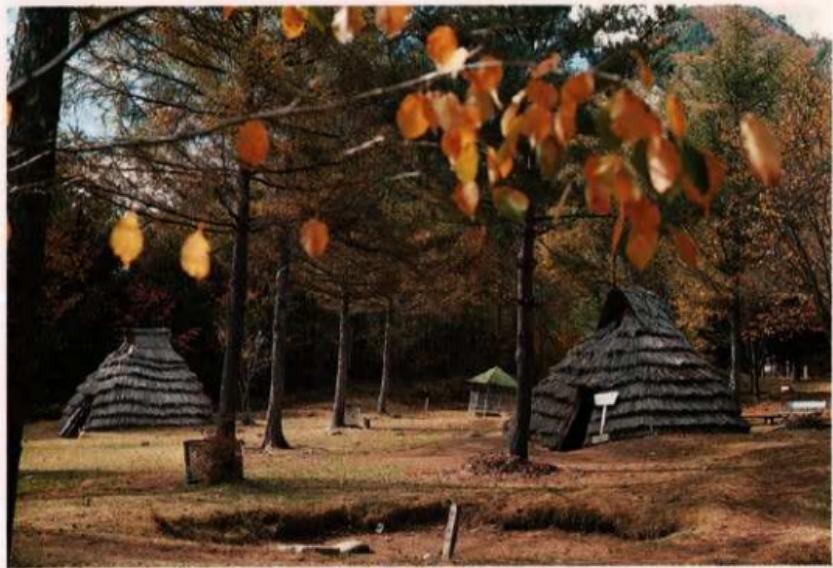
長野県南佐久郡川上村教育委員会



# 川上村遺跡詳細分布調査報告書

1984

長野県南佐久郡川上村教育委員会



大深山遺跡復原住居



大深山遺跡出土香炉形土器・釣手土器

## 序

川上村教育委員会

教 育 長 由 井 和 人

時代の移り変りと共に人の考え方、生活様式も変化してまいります。現在に生きる私達は古を思う時、あまりの変り様に唯々驚嘆するばかりです。このよい時代にどっぷり漬っている時に、ふと「これでよいのだろうか」と不安を感じます。この不安は言いあらわせない「むなしさ」であり「ものたりなさ」です。これはものに対する価値感が唯物的でありすぎ、精神面の欠如によるものと思います。多くの人達が遺跡などを通じて古代を模索し、古文書を解読することによって、私達の祖先のその時代時代の生き方を確認することにより、今日的生きざまの疑問への解明的志向はそれをうらづけて居ると思います。現に川上村でも村誌の刊行の計画をもって届りますが、これは村の歴史を知ることにより、その中に現時点をおき、更に将来への発展の糧にすべきものだと思考されます。

この度、数十年前から多くの諸先輩によって、村内に既に28箇所もの遺跡が発見され発掘されその資料が収集され保存されて来ましたが、いま又更に原始・古代の人達の生き方を解明する唯一の手がかりである全村的な遺跡の分布調査を行うことは、体系づけた調査をし、記録保存し、資料の散逸を防ぎ、その中から私達の祖先の生活様式を浮び上がらせ、学ぼうとするのが目的であります。

この調査は、以前からたくわえられていた資料をもとに昭和58年11月から5ヶ月にわたって行われたもので、その間、国・県の助成を受け御指導を得て、佐久考古学会・川上村教育委員会・川上村文化財保護委員会、その他多くの村民の皆様の御協力によって実地踏査が行われ、更に報告書の作成は佐久考古学会の数名の方によってなされ、資料は所有者の皆様から多くの提供を得て完成に至りました。心から感謝し厚く御礼申し上げます。

## 例　　言

- 1、本書は、昭和58年度文化財保護事業として行った、川上村遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2、本調査は、国・県の補助事業として川上村教育委員会が実施した。
- 3、本調査は、由井和人教育長を団長とし、地元の佐久考古学会員を調査員に、文化財保護委員、教育委員、各地区の地元の方々等の協力を得て実施した。
- 4、本書に挿入した、カード・地図・挿図・図版等の作成は下記の者が行った。

カード・地図の作成……井出正義、地図トレース……島田恵子

写真撮影……山中年行・上田 貢・由井 港

写真焼付……上田 貢

遺跡図版作成……井出正義・由井茂也

遺物図版作成……島田恵子

拓本……由井 明

分布調査採集遺物の整理……由井 明

石器実測……保坂典子・相川幹子・宮坂直子・市野浩世・上住直子

石器トレース……保坂典子・相川幹子・宮坂直子

土器実測・トレース……島田恵子

挿図18・19は、由井茂也他「横尾遺跡」川上村教育委員会 1983から抜粋した。

挿図27・28は、戸沢充則他「報告・野辺山シンポジウム1981」から抜粋した。

- 5、本書の編集は、島田恵子が行い、由井茂也が校閲・監修した。

## 凡　　例

- 1、カードに記入した遺跡略図は、約1:25,000に統一してある。
- 2、石器実測図の縮尺は $\frac{1}{2}$ 、繩文土器の実測図は $\frac{1}{3}$ 、土師器・灰釉・陶器の実測図は $\frac{1}{4}$ に縮尺してある。
- 3、図版中遺物の縮尺は、 $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{4}$ としてあり、各々の図版に縮尺は明記してある。

なお、本調査・報告書作成にあたり、文化財保護委員・教育委員・各林野保護組合長・各分館長・村誌編纂室の上田貢氏・各地元の皆さん、および採集遺物の調査等に心よく応じ、御協力・御援助をいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

# 目 次

## 卷頭図版

### 序

### 例 言・凡 例

### 目 次

I 遺跡詳細分布調査の経緯	1
1 調査に至る動機と経緯	1
2 調査団の構成	1
南佐久郡川上村遺跡一覧表	2
1 二本木遺跡カード	4
1 二本木遺跡全景	5
2 上の原遺跡カード	6
2 上の原遺跡全景	7
3 しだみじゅく遺跡カード	8
3 しだみじゅく遺跡全景	9
4 小川原遺跡カード	10
4 小川原遺跡全景	11
5 上の段遺跡カード	12
5 上の段遺跡全景	13
6 大深山遺跡カード	14
6 大深山遺跡全景	15
6 大深山遺跡第25号住居址実測図	16
6 " " 出土土器実測図	17
6 " " " 写真	18
7 東原A遺跡カード	19
7 東原A遺跡全景	20
7 東原A遺跡出土土器写真	23
7 東原A遺跡 " "	24
8 水の元遺跡採集遺物写真	24
8 水の元遺跡カード	25

8	水の元遺跡全景	26
9	寒い沢遺跡カード	28
9	寒い沢遺跡全景	29
10	苔の平遺跡カード	30
10	苔の平遺跡全景	31
10	苔の平遺跡採集石器	32
10	苔の平遺跡〃	33
11	馬場平遺跡カード	34
11	馬場平遺跡全景	35
11	馬場平遺跡採集石器	36
11	馬場平遺跡〃	37
11	馬場平遺跡〃	38
12	よしのしり遺跡カード	45
12	よしのしり遺跡全景	46
13	御堂塗遺跡カード	47
13	御堂塗遺跡全景	48
14	大海道遺跡カード	49
14	大海道遺跡全景	50
15	深山口遺跡カード	52
15	深山口遺跡全景	53
15	深山口遺跡採集土器写真	57
15	深山口遺跡採集土器・石器写真	58
16	兵部遺跡カード	59
16	兵部遺跡全景	60
17	赤土平遺跡カード	61
17	赤土平遺跡全景	62
18	横尾遺跡カード	63
18	横尾遺跡全景	64
19	天神林遺跡カード	66
19	天神林遺跡全景	67
20	七久保遺跡カード	68
20	七久保遺跡全景	69

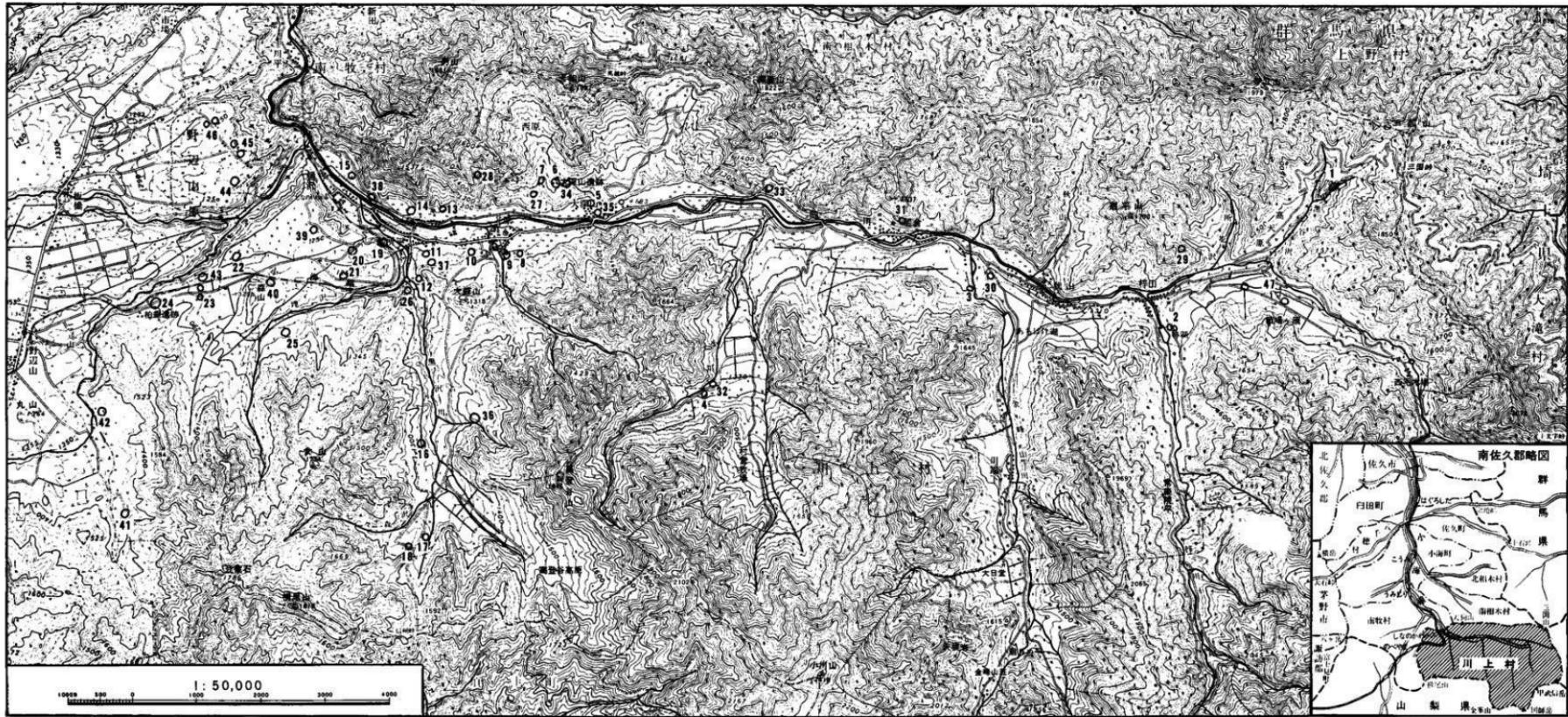
21	唐沢遺跡カード	70
21	唐沢遺跡全景	71
21	唐沢遺跡採集石器写真	72
22	切草遺跡カード	73
22	切草遺跡全景	74
23	西の腰遺跡カード	76
23	西の腰遺跡全景	77
24	柏垂遺跡カード	78
24	柏垂遺跡全景	79
24	柏垂遺跡採集石器写真	85
24	柏垂遺跡 " "	86
24	柏垂遺跡 " "	87
24	柏垂遺跡 " "	88
25	馬飼場遺跡カード	89
25	馬飼場遺跡全景	90
26	三屋敷遺跡カード	91
26	三屋敷遺跡全景	92
27	東原B遺跡カード	94
27	東原B遺跡全景	95
28	穴沢遺跡カード	96
28	穴沢遺跡全景	97
29	赤谷遺跡カード	98
29	赤谷遺跡全景	99
30	村木遺跡カード	100
30	村木遺跡全景	101
31	上の山遺跡カード	102
31	上の山遺跡全景	103
32	笹目木遺跡カード	104
32	笹目木遺跡全景	105
33	姥ヶ瀬遺跡カード	106
33	姥ヶ瀬遺跡全景	107
34	花の木沢遺跡カード	108

34	花の木沢遺跡全景	109
35	宮下遺跡カード	110
35	宮下遺跡全景	111
36	青木の平遺跡カード	112
36	青木の平遺跡全景	113
37	結堀遺跡カード	114
37	結堀遺跡全景	115
38	蕨窪遺跡カード	116
38	蕨窪遺跡全景	117
39	浜場遺跡カード	118
39	浜場遺跡全景	119
40	東森遺跡カード	120
40	東森遺跡全景	121
41	三沢遺跡カード	122
41	三沢遺跡全景	123
42	大平遺跡カード	124
42	大平遺跡全景	125
43	日影遺跡カード	126
43	日影遺跡全景	127
44	坂上遺跡カード	128
44	坂上遺跡全景	129
45	立石遺跡カード	130
45	立石遺跡全景	131
46	久保遺跡カード	134
46	久保遺跡全景	135
47	戦場ヶ原遺跡カード	136
47	戦場ヶ原遺跡全景	137
47	村内の石棒	138
47	分布調査採集遺物	138

## 挿 図 目 次

第1図	川上村遺跡分布図	
第2図	上の段遺跡出土土器実測図	16
第3図	大深山遺跡第25号住居址出土土器実測図	17
第4図	東原A遺跡出土の縄文早期土器拓影	21
第5図	東原A遺跡出土土器拓影	22
第6図	水の元遺跡採集土器拓影	27
第7図	寒い沢遺跡採集土器拓影	27
第8図	馬場平遺跡採集石器実測図No.1	40
第9図	" No.2	41
第10図	" No.3	42
第11図	" No.4	43
第12図	" No.5	44
第13図	大海道遺跡採集土器実測図	51
第14図	七久保遺跡採集土器実測図	51
第15図	深山口遺跡採集土器拓影No.1	54
第16図	" No.2	55
第17図	" No.3	56
第18図	横尾遺跡H1号住居址出土土器実測図	65
第19図	赤土平遺跡採集石器実測図	65
第20図	切草遺跡採集土器実測図	75
第21図	柏垂遺跡採集石器実測図No.1	80
第22図	" No.2	81
第23図	" No.3	82
第24図	" No.4	83
第25図	" No.5	84
第26図	三星敷遺跡採集土器拓影	92
第27図	立石遺跡採集石器実測図	132
第28図	" 土器拓影	133

川上村遺跡分布図



## I 遺跡詳細分布調査の経緯

### 1 調査に至る動機と経緯

先土器時代から縄文時代にわたって著名な遺跡を持つ川上村も、近年開発による破壊が進んでいる。これらの遺跡を確認し破壊から守ることは急務である。そこで今回国・県の補助金を受け、村内遺跡の詳細分布調査を行うことになった。

まず、調査のため村を一巡した。本村は、高原野菜の有名な産地だけに、河岸段丘から山麓の大平原まで、あますところなく野菜畑である。野菜の収穫は、10月いっぱいいかかり、11月は、寒気で大霜や降雪の心配があり、そのために現地調査は、短期間に実施しなければならなかった。11月15日に開始した調査は、川端下から樋沢まで、村内8部落が順調に進んで、11月26日に終了することができた。結果は、すでに確認されている遺跡はいうまでもなく、新しく発見されたもの19箇所を加え、遺跡遺物が確認された。

しかし、広大な村全域から見れば、山林原野に覆われて足跡のおよばなかった地域も少くない。このような場所で、特に樋沢のまつなぎ、御所平の男山・二ノ塚・蠍生原・原の大原・高登谷山麓・大深山の八窪・居倉の高町などについては、今後も注意していただきたい。また、金峰山川の豊富な清流の河岸段丘にありながら、一箇所の遺跡も確認できなかった川端下の地域は、むしろ不思議であった。各地区とも地元の皆様の注意をお願いし、さらに補完していただきたい。

### 2 調査団の構成

調査団長 由井和人（教育長）

総務事務主任 山中年行（総務社会教育係長）

調査員 由井茂也・井出正義・由井 明・島田恵子

調査補助員 関 基・由井幸憲・吉沢 学・上田 黃・猪佐夫・川上 慶

山中重徳・原 好正・由井 港・由井雅彦・小原文一・高橋龍雄

岩木木平・吉沢豊児

下記の方々よりは遺物の提供と御教示を賜わりました。厚く御礼申し上げます。

（敬称は略させていただきます。）

川上礼三・関 決次・由井 満・新海ゆき子・由井貞夫・由井一昭

由井好文・篠原庄一・吉沢時之助・吉沢 純・篠原正水・龍昌寺

大深山考古館・由井祐太郎

南佐久郡川上村遺跡一覧表

番号	種別	時代	名 称	所 在 地	地 目	備 考
1	包藏地	繩	二本木遺跡	梓山二本木	山 林	昭41調査
2	"	先・繩	上の原遺跡	梓山上の原・北坂上	烟	
3	"	平	しだみじゅく遺跡	居倉しだみじゅく	"	
4	"	繩	小川原遺跡	居倉横川	"	
5	"	繩・平	上の段遺跡	大深山上の段	烟・神社 考古館・墓地	
6	"	繩	大深山遺跡	大深山西原	史跡公園	史 跡
7	"	繩	東原A遺跡	原東原	山 林	
8	"	繩・平	水の元遺跡	原水の元	烟	
9	"	繩	寒い沢遺跡	原寒い沢	宅 地	
10	"	先・繩	昔の平遺跡	原昔の平	烟	
11	"	先・弥	馬場平遺跡	御所平馬場平	"	昭28調査
12	"	先	よしのしり遺跡	御所平よしのしり	"	
13	"	繩	御堂窪遺跡	" 御堂窪	"	
14	"	平・中	大海道遺跡	" 大海道	烟・宅地	
15	"	繩・平	深山口遺跡	" 深山口	烟	
16	散布地	先・繩・平	兵 部 遺 跡	" 兵部	山 林	
17	包藏地	"	赤土平遺跡	原赤土平	烟	
18	"	平	横 尾 遺 跡	御所平横尾	烟・道路	昭49調査
19	散布地	繩	天神林遺跡	" 天神林	道路・山林 鉄道線路	
20	包藏地	繩・平	七久保遺跡	" 東坂上	烟・山林	
21	"	先・繩	唐沢遺跡	" 唐沢	"	
22	"	先・繩 弥・平	切草遺跡	" 切草	烟	
23	"	先・繩	西の腰遺跡	" 西の腰	"	
24	"	"	柏垂遺跡	" 柏垂	烟・山林	昭47調査

番号	種別	時代	名 称	所 在 地	地 目	偏 考
25	包蔵地	繩・平	馬飼場遺跡	御所平馬飼場	畠	
26	"	繩	三屋敷遺跡	" 西黒沢	"	
27	"	繩	東原B遺跡	原東原	"	
28	散布地	先	穴沢遺跡	御所平穴沢	山 林	
29	"	繩	赤谷遺跡	梓山赤谷	"	
30	"	繩	村木遺跡	秋山村木	畠	
31	"	繩	上の山遺跡	居倉上の山	畠・急地 屋敷	
32	"	繩	箕日本遺跡	" 中原	畠	
33	包蔵地	平	姥ヶ瀬遺跡	居倉うばがとろ	"	
34	"	平	花の木沢遺跡	大深山花の木沢	"	
35	"	繩・平	宮下遺跡	" 宮下	畠・宅地 墓	
36	"	先・平	青木の平遺跡	原青木の平	畠	
37	"	先・繩・平	詰堀遺跡	原詰堀	"	
38	"	繩・平	麻窪遺跡	御所平麻窪	"	
39	散布地	繩	浜場遺跡	" 浜場	"	
40	包蔵地	先	東森遺跡	" 東森	"	
41	"	繩	三沢遺跡	" 三沢	山林・道路	
42	"	先・繩	大平遺跡	極沢大平	牧 場	
43	"	先・繩・平	日影遺跡	" 日影	畠	
44	"	先・繩	坂上遺跡	" 坂上	"	
45	"	先・繩・平 弥	立石遺跡	" 立石	"	
46	"	先・繩・平 弥	久保遺跡	" 久保	"	
47	散布地	先・繩	戦場ヶ原遺跡	梓山戦場ヶ原・横道	"	

(先—先土器時代・繩—繩文時代・弥—弥生時代・平—平安時代・中—中世)

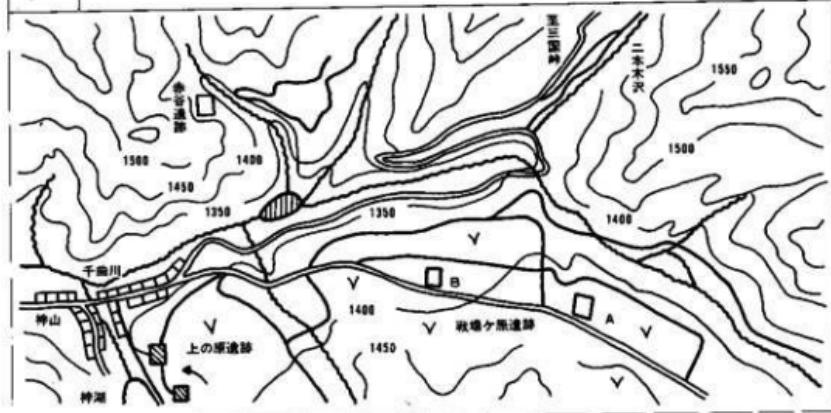
遺 路 号	1	遺跡名	二本木	遺跡の種類	包蔵地	部落名	梓 山
地 目	山 林	面 積	1,000m <sup>2</sup>	時 代	縄 文	調 査 年月日	58年11月16日
所在 地・土地 所有者	字 名 二本木	地 番 6-1	氏 名 川上村	字 名	地 番	氏 名	
遺 物	採集 遺物	黒曜石片5・チャート1 土器細片1					
既出 遺物	昭和41年8月早稲田大学桜井清彦氏が発掘調査、土器細片1 石器(黒曜石)13。(内6点は局部磨製)不定形剥片石器5。(早稲田大学所蔵)						
位 置 地形 環境	千曲川の最上流梓山部落からさらに約2kmさかのばり、それより支流二本木沢について、三国峠の旧道を約1,200mのぼった標高1,530m、南面する緩傾斜地に存在する。三国峠(旧峠)の頂上まではあと1kmの上りである。頂上に立てば北は群馬県多野郡、上野村、東は埼玉県秩父郡大滝村である。 遺跡の下方比高約10mの二本木沢の底には、谷川の水が流れている。遺跡は旧道をはさんで、比較的小範囲のものと思われる。付近は現在カラマツ林におおわれている。						

# 1 二本木遺跡



下は三国峠古道

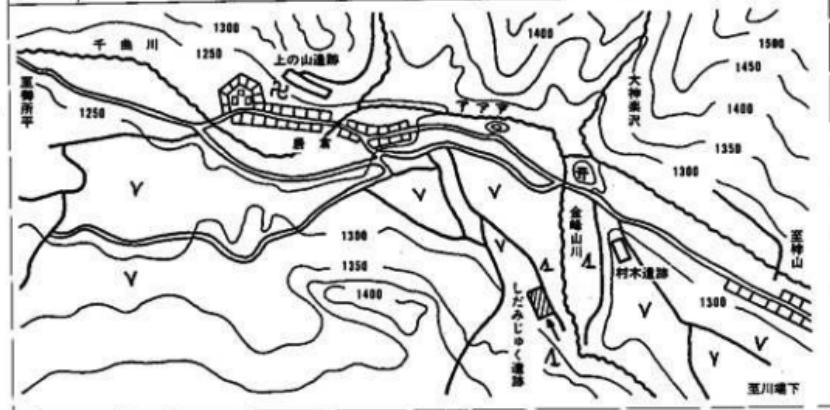
遺番	2	遺跡名	上の原	遺跡の種類		包藏地	部落名	桙山
地日	畠	面積	6,000m <sup>2</sup>	時代		先土器縄文	調査年月日	58年11月16日
	字名	地番	氏名		字名	地番	氏名	
所在地・土地所有者	上の原西 〃 北坂上	432-3 433-1 426	風間春雄 伊藤常次 高橋雄					
遺物	採集遺物							
既出遺物	上の段…黒曜石・チャートのスクレーパー（関決次所蔵） 北坂上…黒曜石の石錐1点（高橋雄採取）							
位置地形	千曲川と桙川の合流点、桙山部落の南東の台地上の西端に位置する。東は広大な戦場ヶ原の台地に連なり、西は比高50mの段丘下に桙湖があり、その北に桙山部落がつづいている。 海拔1,360m西北に緩傾斜する段丘面は現在は高原野菜畠で、遺跡は全面厚い客土がなされ、表面採取は困難である。							
環境								



2 上の原遺跡



遺跡号	3	遺跡名	しだみじゅく	遺跡の種類		包蔵地	部落名	居舎
地目	烟	面積	10,000m <sup>2</sup>	時代	平安	調査年月日	58年11月17日	
所在地・土地所有者		字名	地番	氏名		字名	地番	氏名
	しだみじゅく	59	伊藤嘉武					
	"	62	"					
	"	96	田口史夫					
	"	104	"					
	"	107	"					
遺物	採集遺物							
既出遺物	土師器・須恵器(由井港所蔵)							
位置	金峰山川の千曲川合流点から、金峰山川左岸について、約700mさかのほった低い台地状の緩傾斜地にあったが、現在畑地造成で削平されてしまったので、遺物の採集は困難である。ここはもと金峰山登山の旧道にあたっていた。須恵器は大型の襲形の破片である。							
地形環境								



3 しだみじゅく遺跡

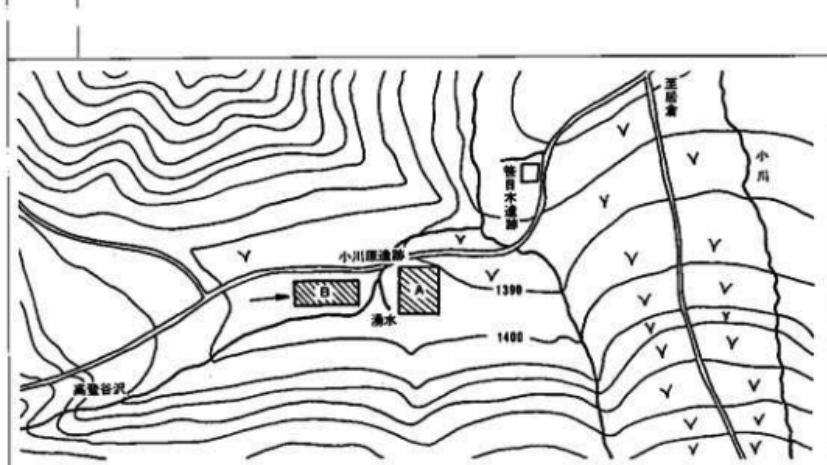


遺番 路号	4	遺跡名	小川原	遺跡の種類	包蔵地	部落名	居倉
地目	畠	面積	7,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月17日
所在地・土地所有者	字名 横川 原越路	地番 38 11-イ	氏名 古原香人 古原信夫	字名	地番	氏名	

遺物	採集遺物	
	既出遺物	A地点…縄文中期土器 B地点…諸磯B式土器（山井満・居倉老人会所蔵）

高登谷山の東北、標高1,390mの広い高原性台地で、高登谷沢の川をはさんで、A（横川）、B（原越路）2地点が接している。A地点の上部には豊富な湧水があり、B地点の南側は高登谷沢川が流れている。現在は全面客土が行われていて、表面採集はできない。

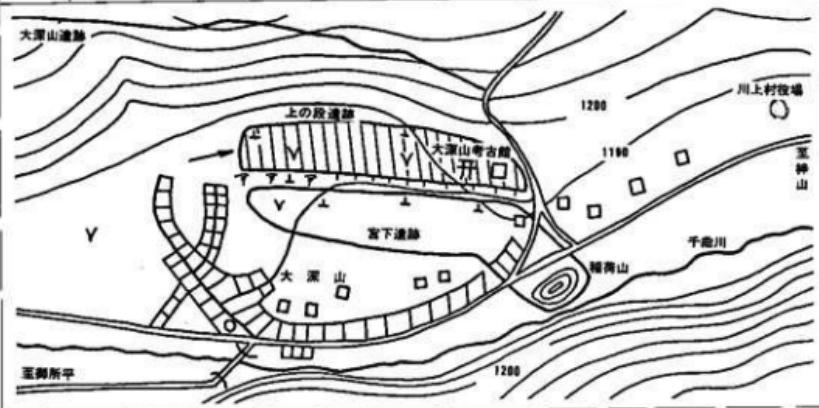
位置  
地形  
環境



4 小川原遺跡



遺路番号	5	遺路名	上の段	遺路の種類	包藏地	部落名	大深山
地目	畠・神社 考古館・墓地	面積	10,000m <sup>2</sup>	時代	紀平 文安	調査年月日	58年11月21日
所在地・土地所有者	東上の段 750 751 749-752 古宮神社境内 755 756 762-763 757のイ 757のロ 758 761 759 760	地番 640 中島治光山 中井瀬 大宮池 古宮池 中島忠 中島恒 中島文 原正水 由原正水	氏名 治光山 内雄久 一太夫庵 太夫庵 正木治 原梅吉	西上の段 821 828 829 830 831 832 834 833 835	地番 821 由井原庄 篠原政 篠原明 日向 森原六郎 森原六郎 原梅吉	氏名 原安徳 港一隼人 原政 原人 原人 原人 原人 原人 原人 原人	
遺物	採集遺物	打石斧					
既出遺物	縄文…勝坂式・加曾利ヒ式・塙ノ内・加曾利ヒ式、石鎌・打石斧・石棒・磨石・燧石・土師・須恵・灰釉(由井港・藤原正家・大深山考古館所蔵)						
位置地形環境		大深山部落の北側山麓に添う段丘上に位置し、南面して日当たりよく、湧水もある。大深山考古館・古宮神社境内を含んで、その西方、段丘上段一帯の畠地に及ぶ。考古館建設時にも土器・石器を出土し、神社境内にはなお多く埋蔵されている。耕作中に住居の敷石と思われるものが数個発見されている。					

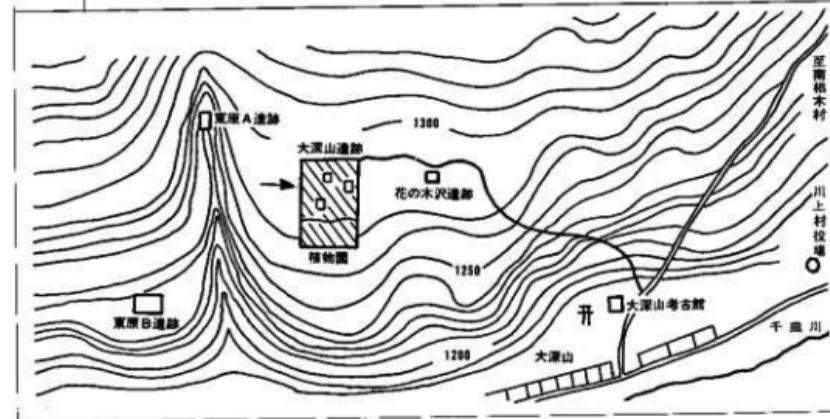


5 上の段遺跡



遺番	路号	6	遺跡名	大深山	遺跡の種類	国指定史跡	部落名	大深山
地目	史跡公園	面積	10,000	時代	縄文中期	調査年月日	58年11月21日	
所在地・土地所有者	西原	地番	川上村	字名		地番	氏名	

遺物	採集遺物
既出遺物	縄文中期住居址51・配石遺構・勝坂・加曾利巳(普利)・堆ノ内・石棒・石皿・打製石斧・磨製石斧・石槍・石鐵・石匙、土製耳飾・土偶(大深山考古館所蔵)
位置地形環境	千曲川畔大深山部落の北方、比高120mの南面する台地上にある。うしろに天狗山(1,882m)を負い、千曲川を前面にした標高1,300mの緩傾斜の台地で、西方に深さ10mの沢を隔てて、東原A遺跡(縄文早期)がある。周囲は山林で自然がよく保存されている。昭和28年から数次にわたって発掘調査が行われてその全容が明らかにされ昭和41年國史跡に指定された。出土品は大深山考古館に保存展示されている。遺跡には復原住居3棟等があり、植物園もつくられている。



## 6 大深山遺跡



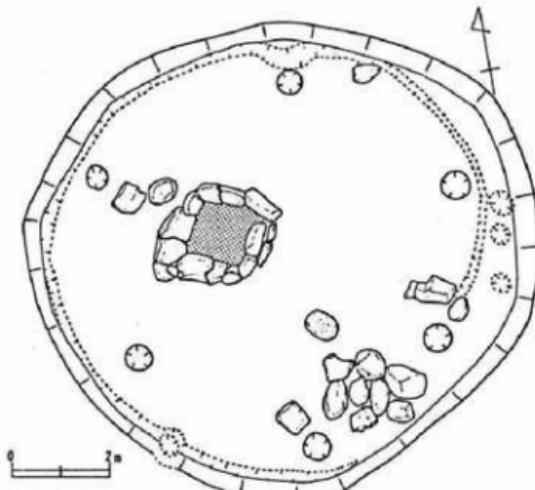
住居址と復原家屋

## 5 上の段遺跡



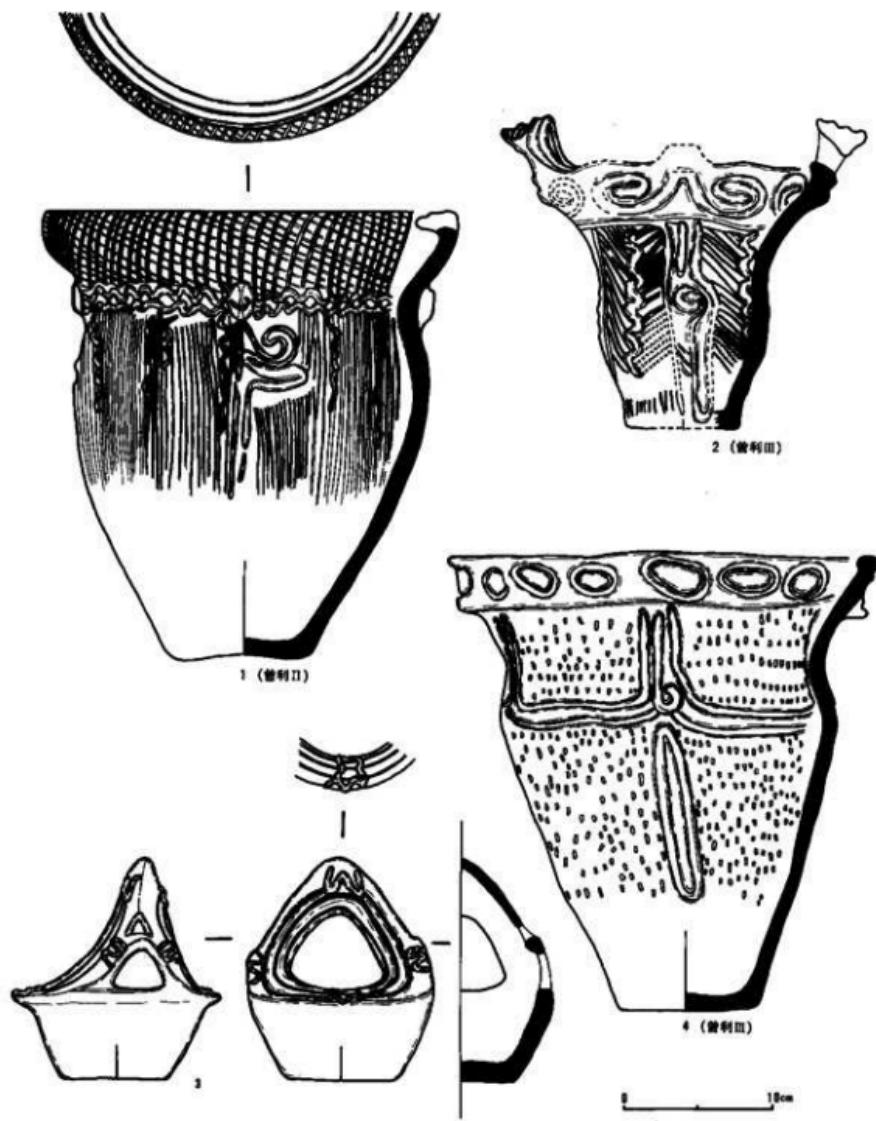
第2図 上の段遺跡出土土器実測図（1：3）  
(由井茂也所蔵)

## 6 大深山遺跡



第25号住居址実測図

註) 八幡一郎「信濃大深山遺跡」川上村教育委員会1976



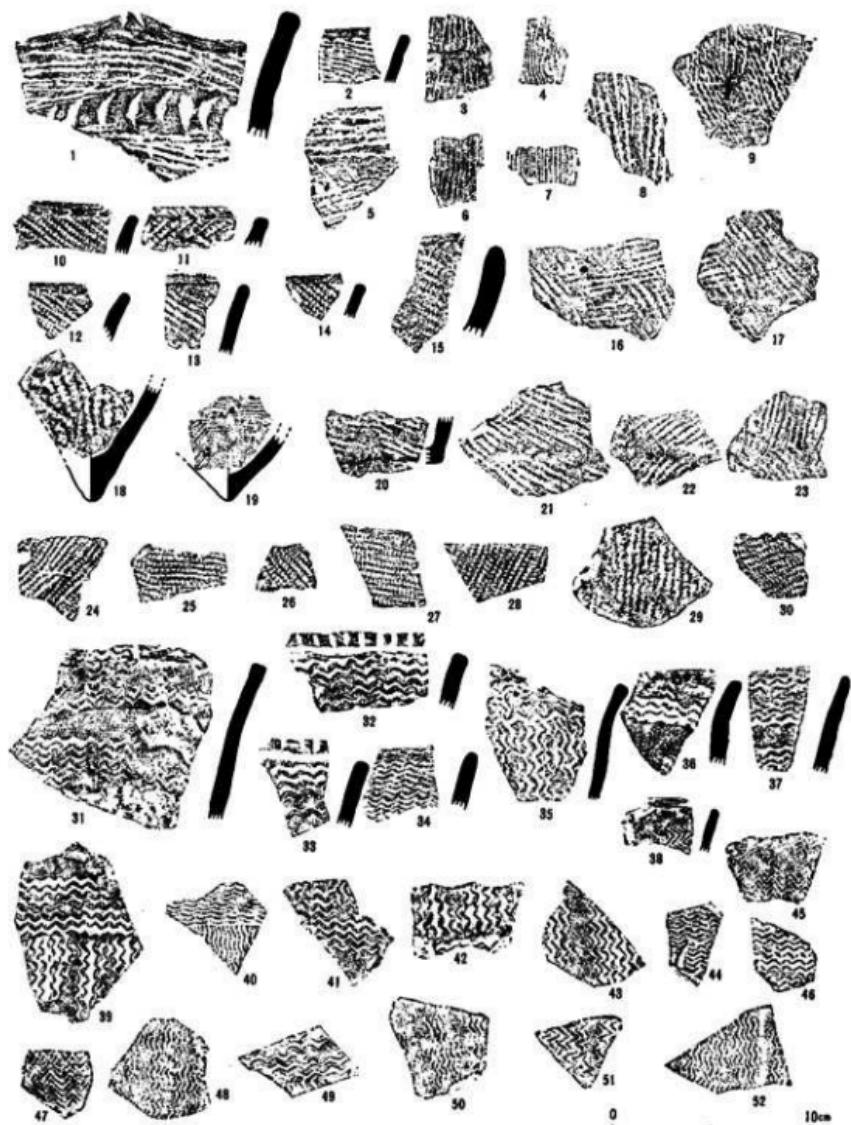
第3圖 大深山遺跡第25號住居址出土土器實測圖 (1 : 4)  
(大深山遺跡考古館所藏)



遺跡号	7 遺跡名 東原 A	遺跡の種類	包藏地	部落名	原
地目	山林 面積 1,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月21日
所在地・土地所有者	字名 地番 氏名 東原 1,454 新海世機	字名 地番 氏名			
遺物	採集遺物 縄文中期土器片	既出遺物 縄文早期（尖底・押型・撚糸）土器、中期土器、住居址3 (大深山考古館・山井港所蔵)			
位置地形環境	大深山遺跡の西、深さ約10mの東原沢（標高1,280m）の沢の西側の緩斜面にある。沢の底には溪流が流れている。南西250mに東原B遺跡がある。 従来「東原遺跡」とされていたが、今回の調査で、同字の中に新遺跡が確認されたので「東原A遺跡」と名称を改める。				

7 東原 A 遺跡





第4図 東原A遺跡出土の縄文早期土器拓影（1：3）  
 (撚糸文1～9、斜縄文10～30、山形押型文31～52)  
 (大深山考古館蔵)



第5図 東原A遺跡出土土器撮影 (1:3)

(1-19 楕円押型文、20-21 諸縄C式、22-38 繩文中期後半の上器)

(1-19 楕円押型文、20-21 諸縄C式、22-38 繩文中期後半の土器)

(大深山考古館蔵)

7 東原A遺跡出土土器 (1/3)



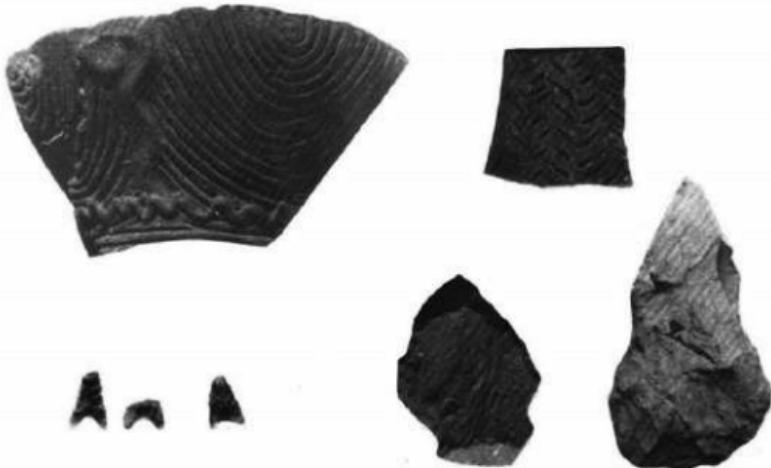
7 東原A遺跡出土土器 ( $\frac{1}{3}$ )



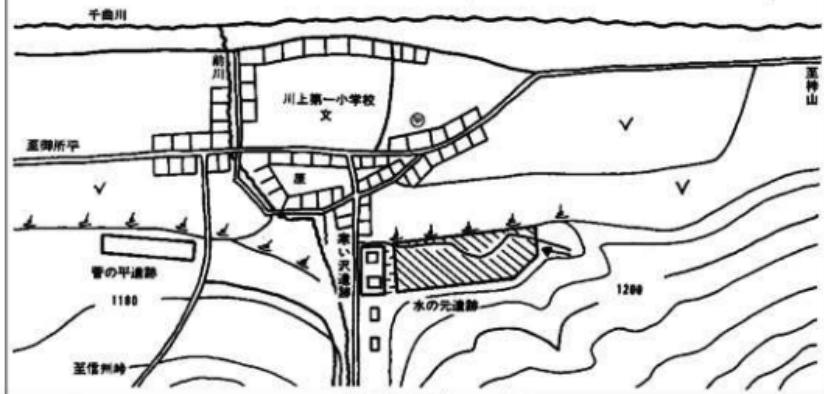
尖底土器 ( $\frac{1}{2}$ )



8 水の元遺跡採集遺物 (約  $\frac{1}{3}$ )

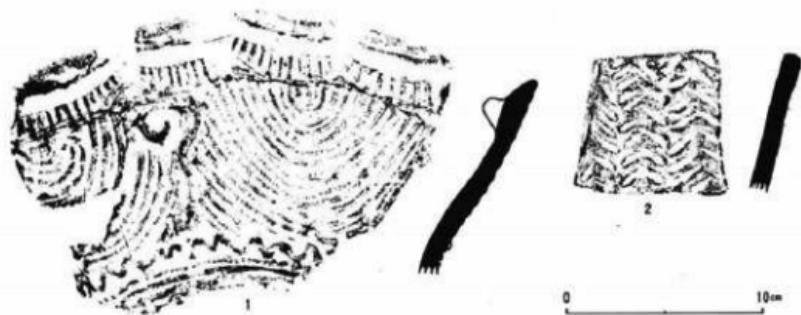


遺跡番号	8	遺跡名	水の元	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畠	面積	15,000m <sup>2</sup>	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月18日
所在地・土地所有者	水の元	857 858 860 861 862 863 867・870 871	新海 渡辺 渡辺 渡辺 新海 由井 渡辺 井出	善 茅 昭 六 善 正 喜 有	一 高 実 三 一 文 姫 文	字名	地番 氏名
遺物	採集遺物						
	既出遺物	縄文時代 打石斧・石匙・石鎌、土師器（平安時代） 〃 中期土器（曾利式）					（由井茂也・新海ゆき子所蔵）
位置地形環境		原部落の南方、比高約10mの山麓台地上に位置する。西は北流する前川の段丘崖によって限られている。段丘崖下と前川の間の屋敷地は、縄文中期の寒い沢遺跡である。南方山ぎわの斜面をけずって一帯の平坦な畠地としている。全面に厚い客土が行われている。					

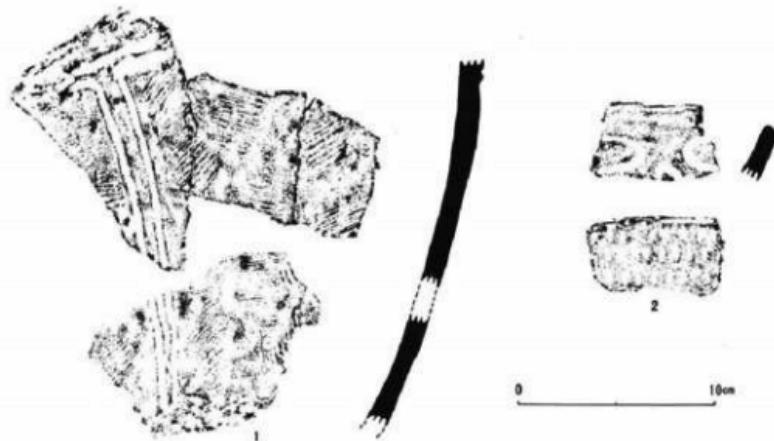


8 水の元遺跡





第6図 水の元道路跡採集土器拓影（1：3）（新海ゆき子氏所蔵）



第7図 寒い沢道路跡採集土器拓影（1：3）（由井茂也氏所蔵）



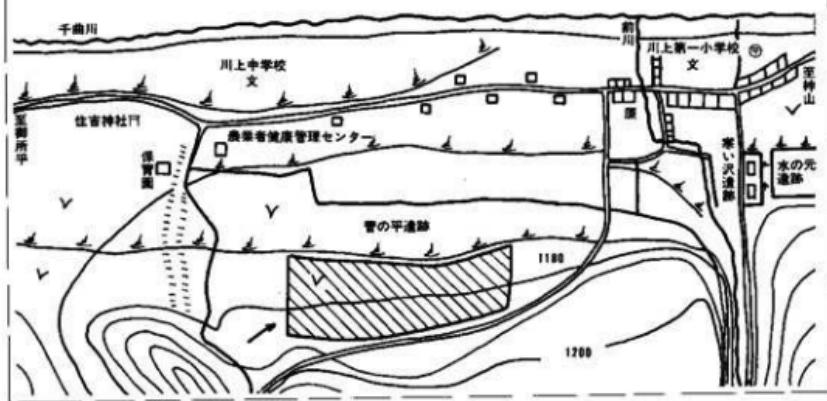


## 9 寒い沢遺跡



住宅の敷地となっている

遺跡番号	10	遺跡名	菅の平	遺跡の種類	包藏地	部落名	原
地目	畠	面積	15,000m <sup>2</sup>	時代	先土器・縄文	調査年月日	58年11月18日
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名	
所在地・土地所有者	菅の平	392	菊原 源義	菅の平	408	中島 卓助	
		393	菊原 甲子太郎		409	渡辺 源広	
		394	井出 通		421	渡辺 健一	
		398	"		422	"	
		399	井出 光男		423	渡辺 文雄	
		400	井出 隆徳		424	"	
		406	林 保大		437	"	
		405	"		438	渡辺 健一	
		407	藤原 彩一				
遺物	採集遺物						
既出遺物	ポイント・ナイフ形石器・スクレーパー・不定型石器・石鏃 (由井茂也・由井明・由井一昭所蔵)						
位置	原部落の西方、川上中学校との間の県道の南側、千曲川にそって雛段のようにならぶ段丘の第三段丘上に位置する、段丘中央を縱断する農道をはさんで遺物出土地が分布する。標高1,170m、東方の前川右岸には寒い沢遺跡と水の元遺跡がある。西方段丘上には馬場平、詰塙の両遺跡がつづいている。農地改良のため客土が全面に行われている。						
地形環境							

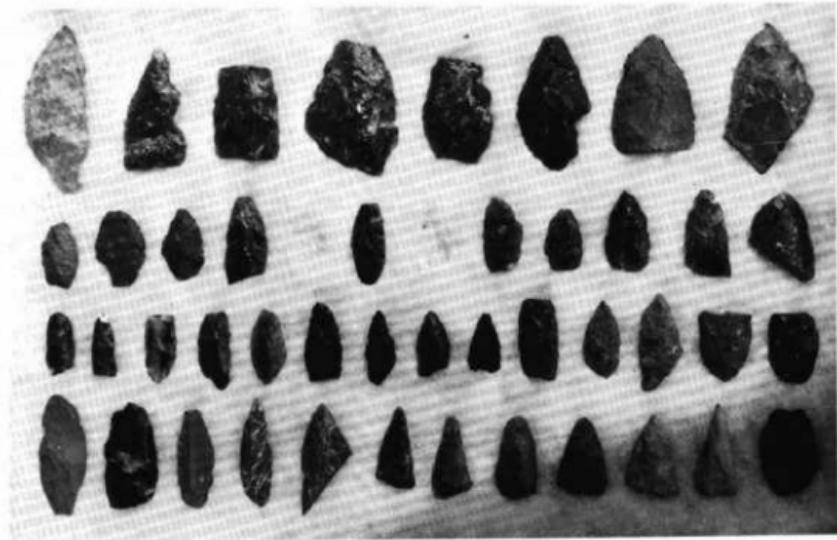


10 菅の平遺跡



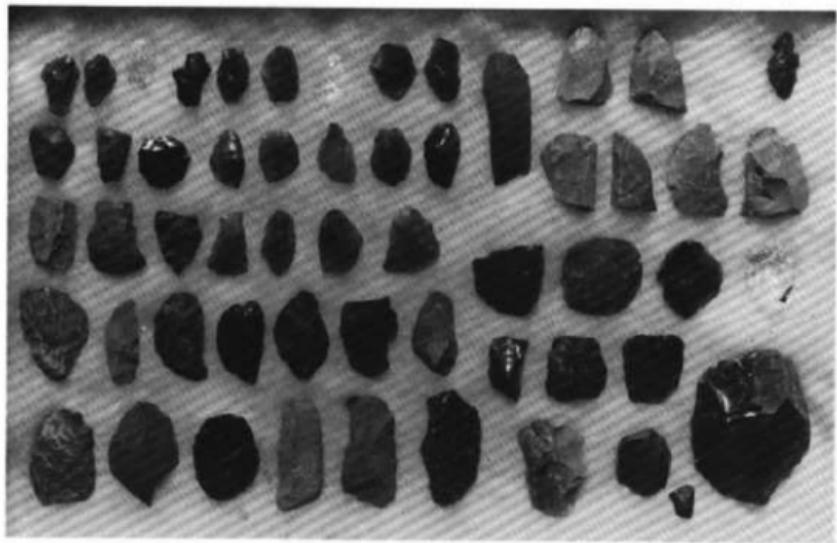
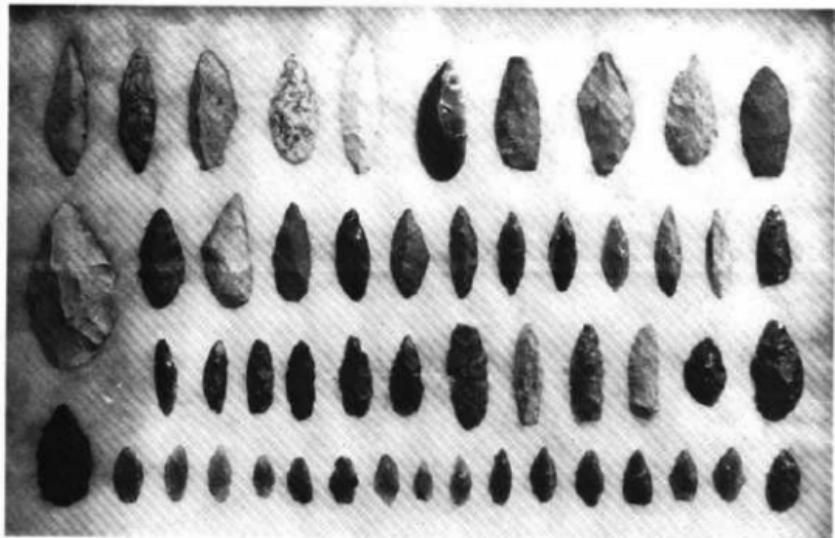
10 菅の平遺跡採集石器 (1/3)

由井一昭所蔵

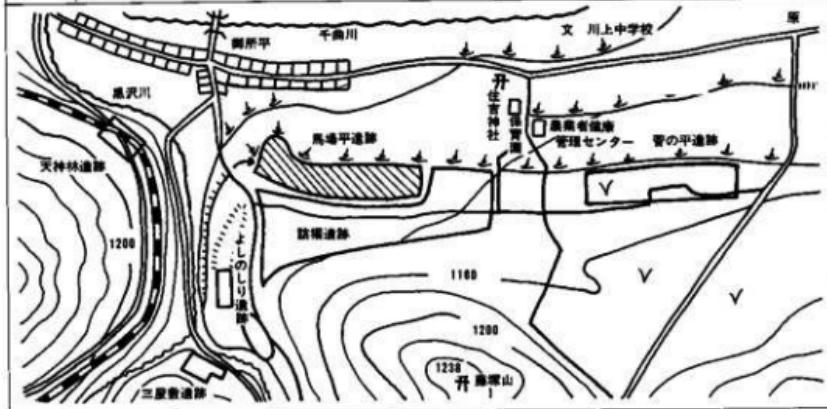


10 菅の平遺跡採集石器 (1/3)

由井一昭所蔵



遺跡番号	II	遺跡名	馬場平	遺跡の種類		包蔵地	部落名	御所平
地目	畠	面積	5,000m <sup>2</sup>	時代	先土器・弥生	調査年月日	58年11月18日	
所在地・土地所有者		字名	地番	氏名		字名	地番	氏名
		馬場平	1,435 1,436 1,437 1,438	由井主計 由井近江 由井茂璞 由井富次郎				
		前の山		由井庸云				
遺物	採集遺物	ポイント(頁岩製)1						
	既出遺物	ポイント・スクレイパー・ナイフ形石器・穂群遺構・弥生磨製石器3 (明治大学・由井茂也・由井明・由井昭・由井祐太郎蔵)						
位置地形環境		御所平部落の東方、住吉神社境内の森の南方の第三段丘上に位置する。広い一帯の段丘面の西北端の馬場平、前の山地籍にわたる比較的狭い範囲である。馬場平遺跡の東から南をとり囲んで宇崎堀地籍で結構遺跡となっている。石器の出土は古くから知られていたが、昭和28年、明治大学岸沢長介氏によって尖頭器がローム層中より出土することが確認された学史的な重要な遺跡である。						



11 馬 場 平



11 馬場平遺跡出土石器 (1/3)

由井裕太郎所藏

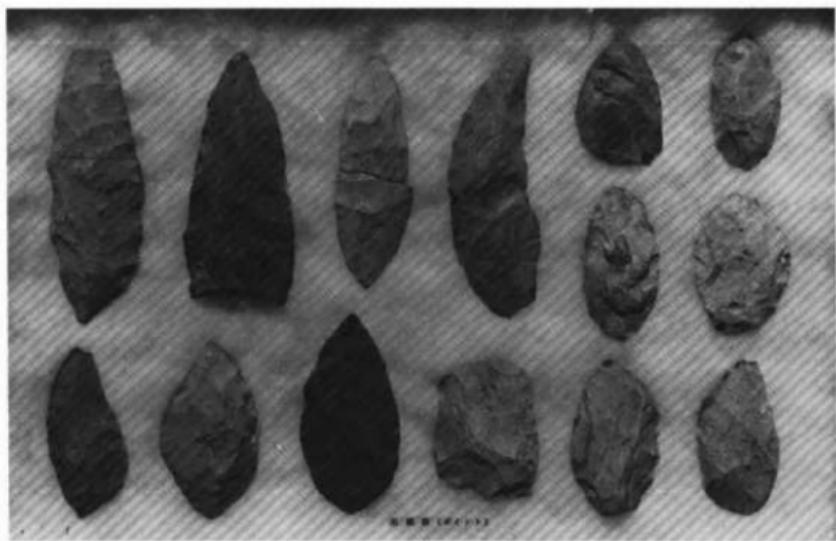
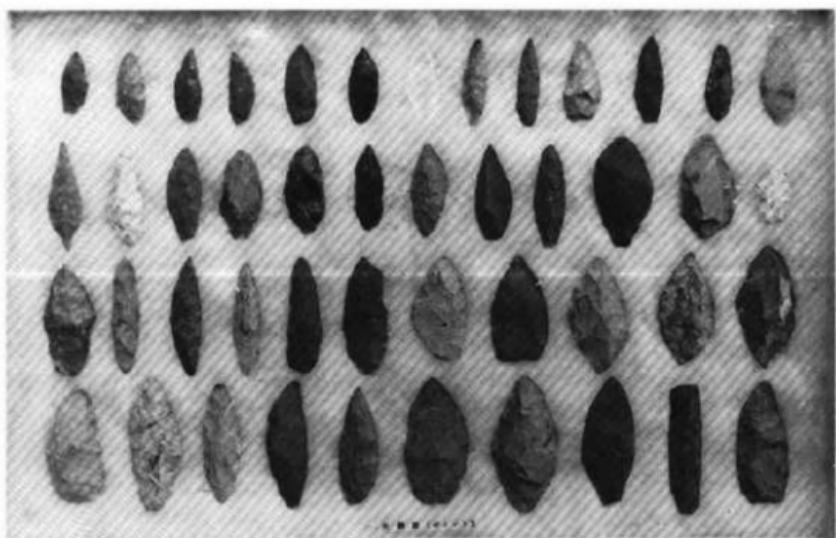


由井一昭氏所藏



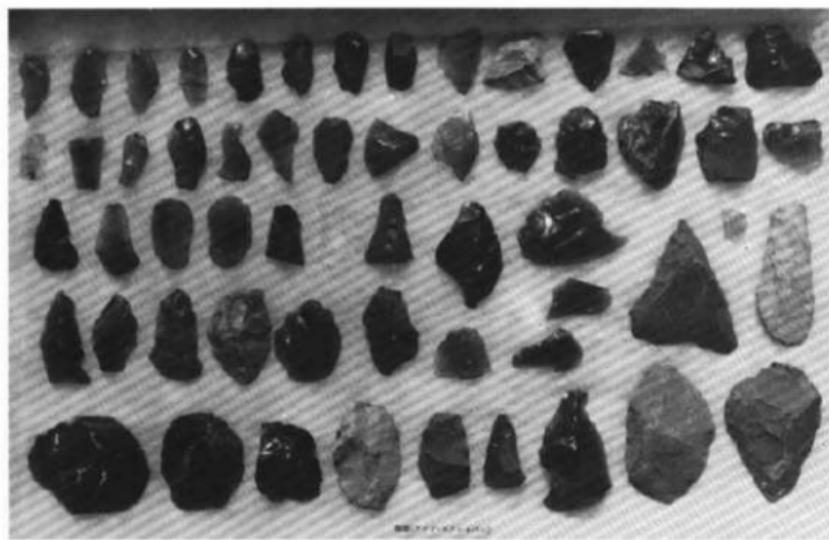
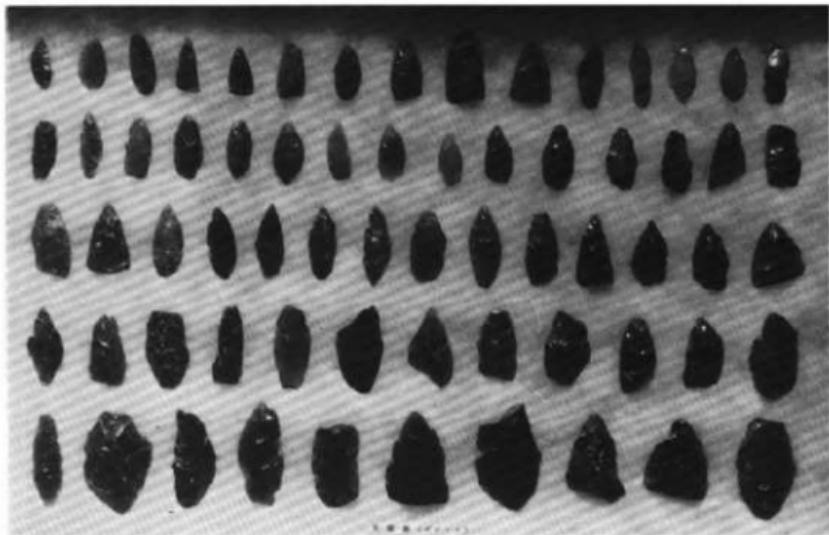
11 馬場平遺跡出土石器 (1/3)

由井一昭所藏



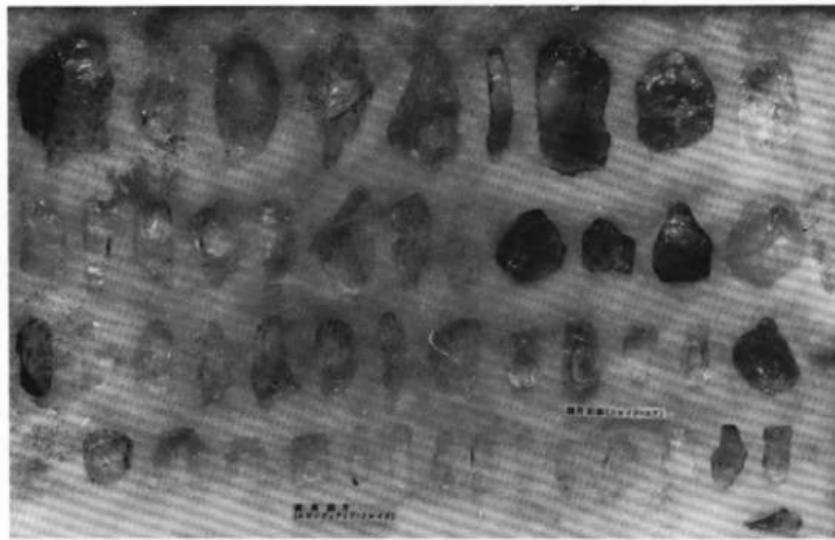
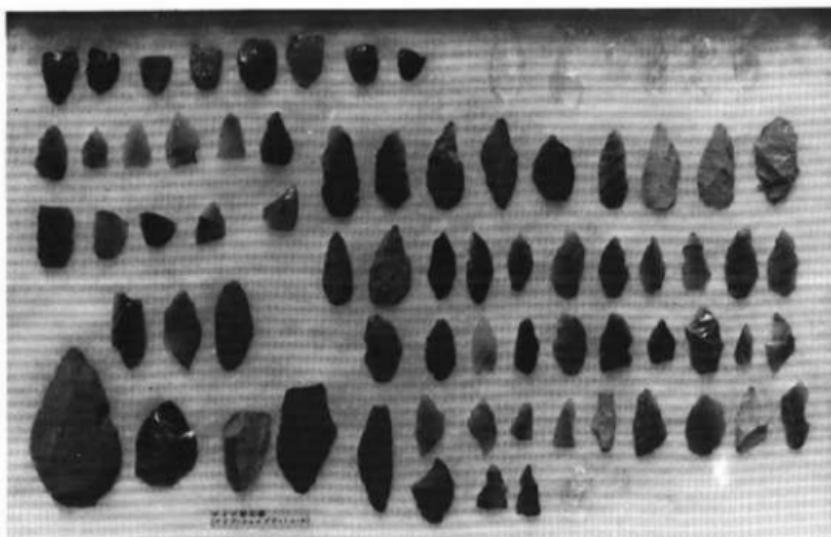
11 馬場平遺跡採集石器 (1/3)

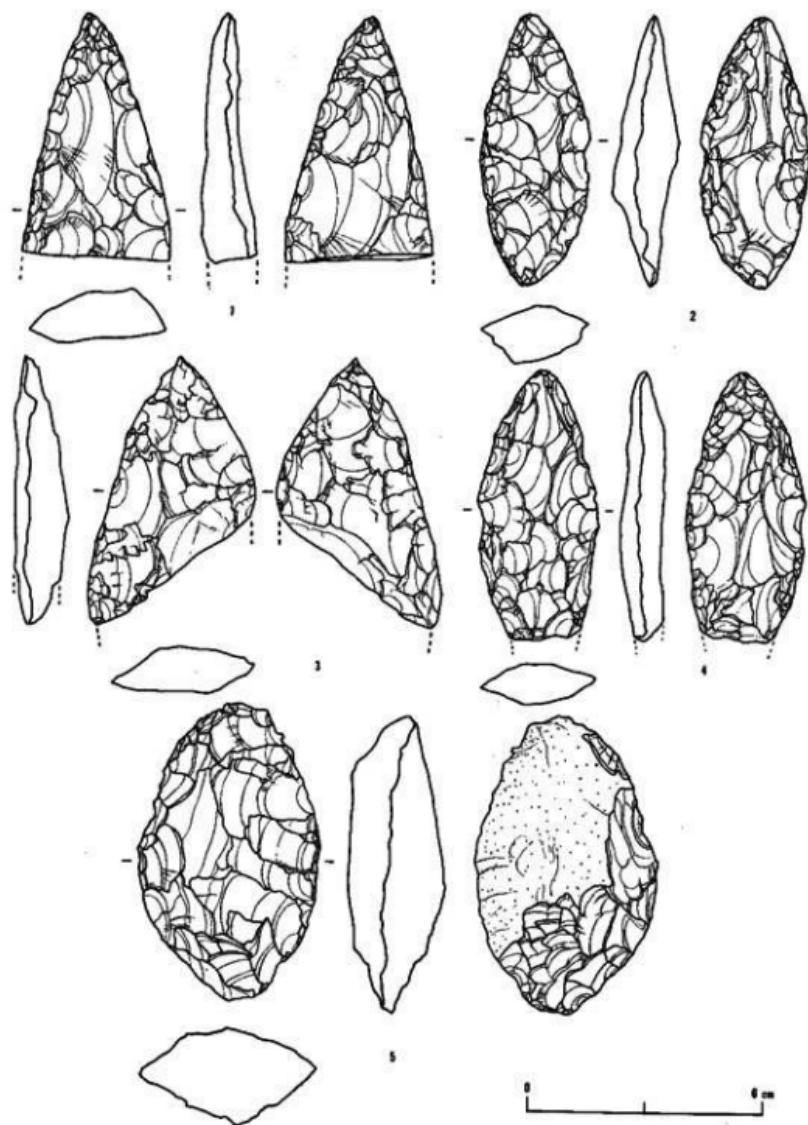
由井一昭所藏



11 馬場平遺跡採集石器 (1/3)

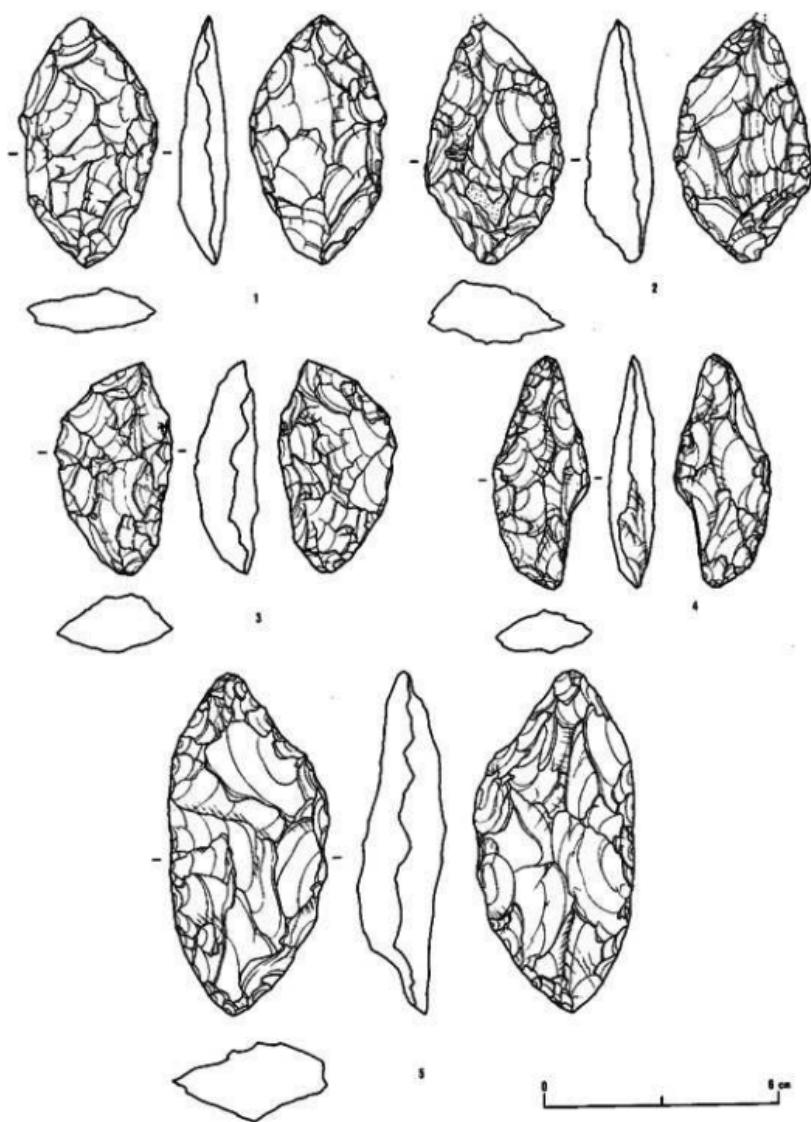
由井一昭所藏





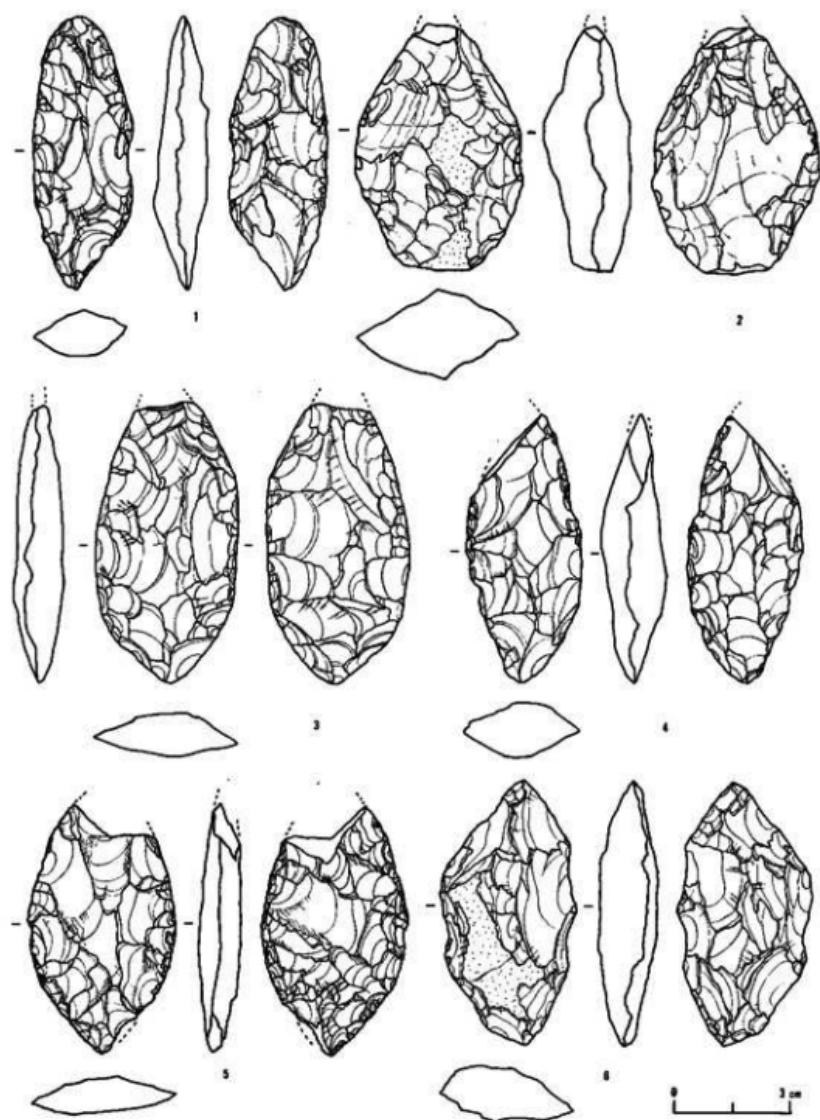
第8図 馬場平遺跡採集石器実測図 (2:3) 1~5 槍先形尖頭器

(1~3・5 山井茂也、4 由井 明所蔵)



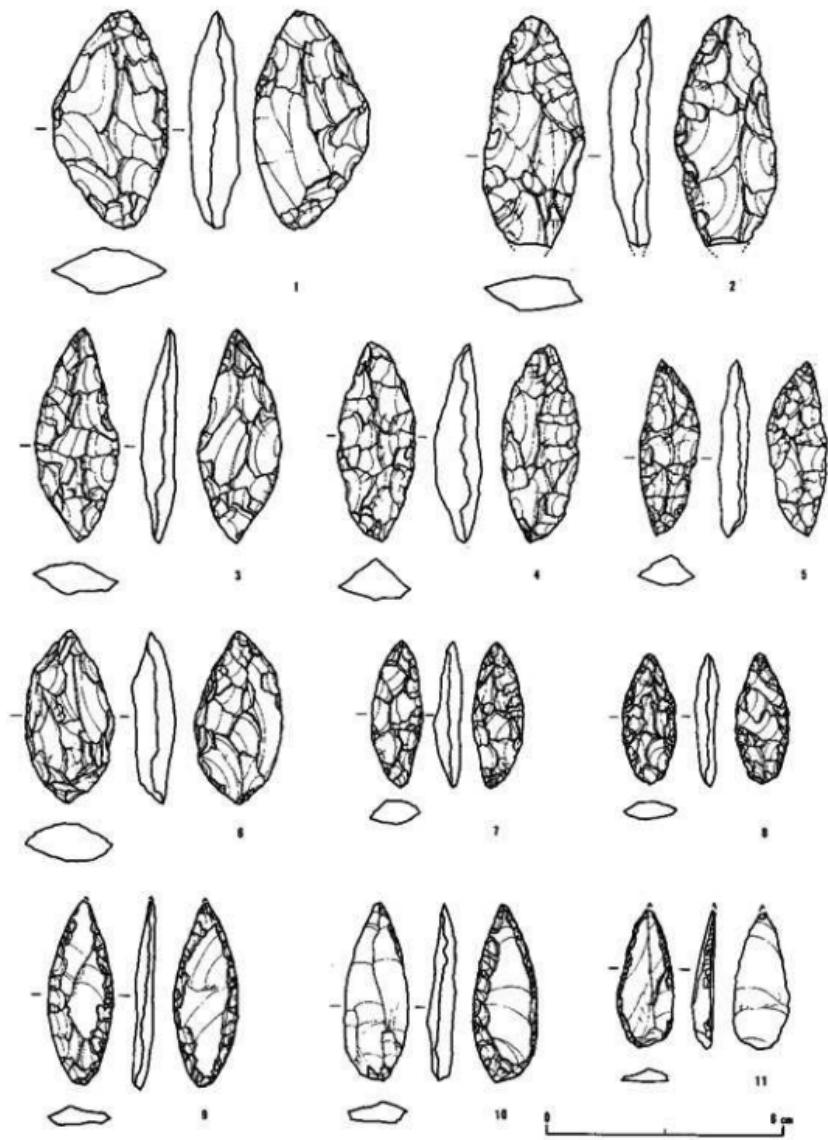
第9図 馬場平遺跡採集石器実測図（2：3） 1～5 槍先形尖頭器

(1, 2, 4, 5 由井茂也, 3 由井裕太郎所藏)

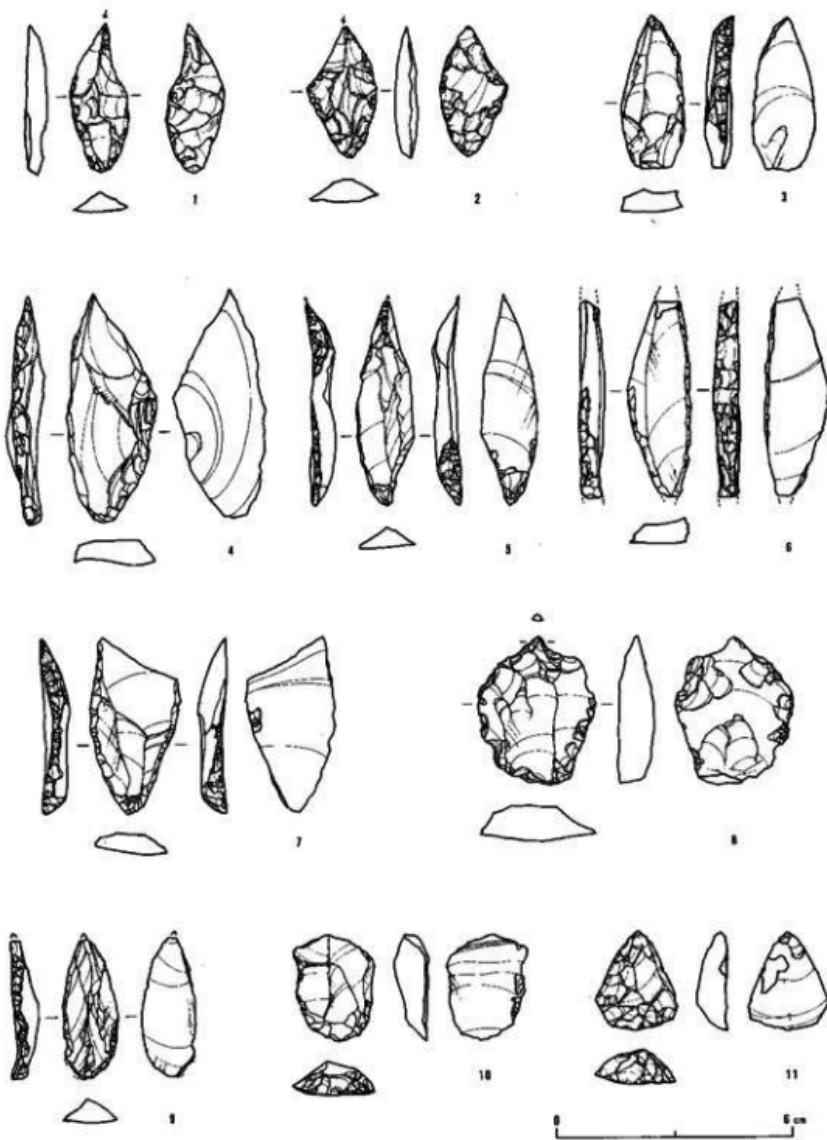


第10図 馬場平遺跡採集石器実測図 (2:3) 1~6 桧先形尖頭器

(1, 6 由井裕太郎、2, 4, 5 由井茂也、3 山井 明所藏)

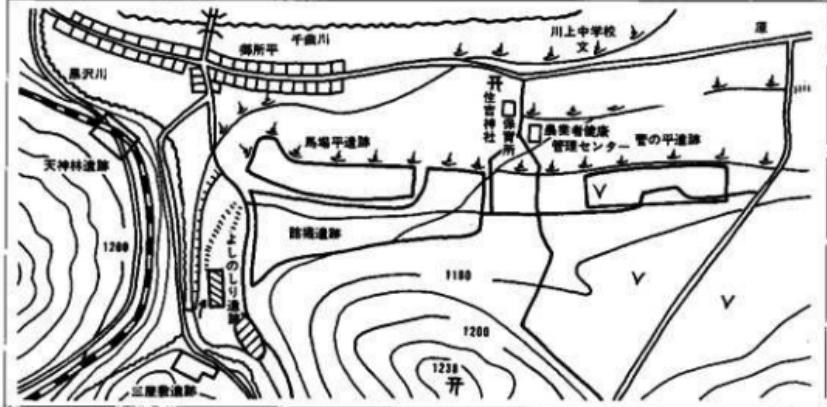


第11図 馬場平遺跡採集石器実測図 2:3 1~10 横先形尖頭器  
 (1. 3. 4. 6. 山井裕太郎 2. 5. 7. 9. 10. 山井 明 8. 山井茂也 11. 由井一昭所蔵)



第12図 馬場平遺跡採集石器実測図 2:3 1.2 彫器 3~7, 9 ナイフ形石器 8 石錐 10·11 撃器  
(1. 8. 9 山井茂也 2. 3. 5. 7. 10 由井裕太郎 4 由井 明 6. 11 由井一昭所蔵)

遺跡号	12	遺跡名	よしのしり	遺跡の種類	包藏地	部落名	御所平
地目	畠	面積	4,300m <sup>2</sup>	時代	先土器	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者	字名 石休場	地番 1477 1462	氏名 由井政光 〃	字名	地番	氏名	
遺物	採集遺物	スクレーバー					
	既出遺物	小形ポイント・スクレーバー・ナイフ形石器 (由井一昭・由井茂也・由井明所蔵)					
位置	馬場平・詰堀西遺跡の台地の南に接続し、黒沢川と藤塚山の間にはさまれ狭められた地形となる。黒沢川の屈曲部の右岸に数段の小段丘が形成されているうちの上段部に位置し、その北は詰堀遺跡に接している。黒沢川をはさんだ対岸の段丘端に、三層敷遺跡がある。						
地形環境							



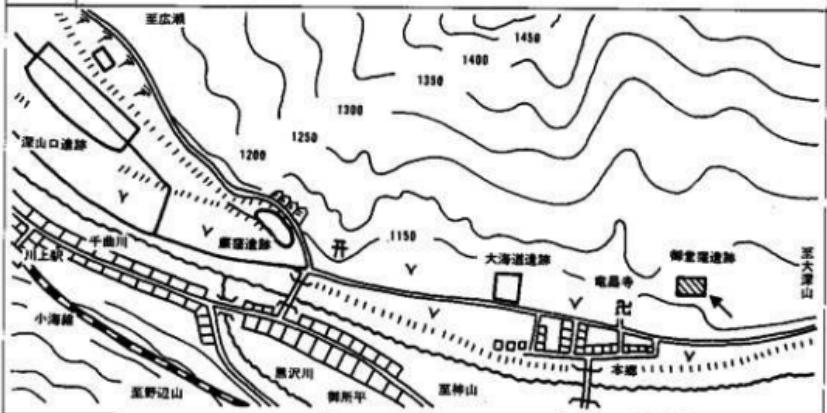
12 よしのしり遺跡



遺 跡 番 号	13	遺跡名	御堂窟	遺跡の種類		包藏地	部落名	御所平
地 目	畠荒地	面 積	1,000m <sup>2</sup>	時 代	縄文	調 査 年月日	58年11月22日	
所 在 地 ・ 土 地 所 有 者	字 名 御堂久保	地 番 535	氏 名 竜昌寺 由井時治	字 名	地 番	氏 名		

遺 物	採集遺物	
	既出遺物	縄文前期（諸穂式・踊場式）土器 (由井茂也・由井貞夫蔵)

位置 地形 環境	千曲川右岸、御所平本郷区の北方、日向山の麓、標高1,160mの狭小な南面する小台地上にある。前面の千曲川畔の平坦地より比高10m、西南方60mに竜昌寺があり、さらに西方山麓線にそって大海道、わらび宿、深山口等の遺跡が2kmにわたって連なっている。東方1,300mの台地上には大深山遺跡・東原A・B等の遺跡が存在する。現在畠地は多く荒地となっている。
----------------	--



13 御堂窟遺跡

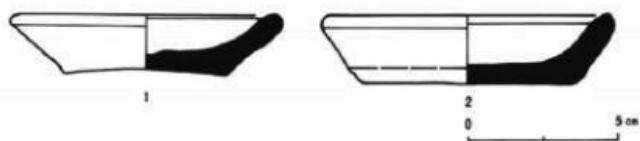


遺番 路号	14	遺跡名	大海道	遺跡の種類	包藏地	部落名	御所平
地目	宅地・畠	面積	6,000m <sup>2</sup>	時代	平安・中世	調査年月日	58年11月22日
	字名	地番	氏名		字名	地番	氏名
所在地・土地所有者	中大海道	279	由井常夫				
		277	土星陽一				
		278	由井かのと				
		280	由井江つき				
		272	由井吉三郎				
		273	中島徳				
遺物	採集遺物						
既出遺物		土師質土器皿2・底部1、土師器破片、須恵器破片 (山井明・山井満所蔵)					
位置地形環境	千曲川右岸、本郷部落の平坦面で、内裏山の山麓と男橋・大深山線道路の間の細地を中心とするが、遺物の散布は本郷部落から男橋の間の全域にわたっている。この平坦面の千曲川ぞいに集落があったが水害のため対岸の御所平地区に移転した。現在付近に五輪塔、金山神社跡が残され、中世・古代の伝承地等が多い。						

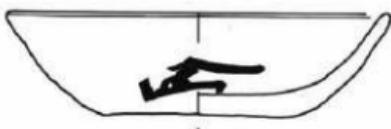
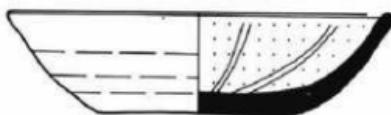
14 大海道遺跡



うしろは内裏山



第13図 大海道遺跡採集土器実測図 (1 : 2)



0 5 cm

第14図 七久保遺跡採集土器実測図 (1 : 2)



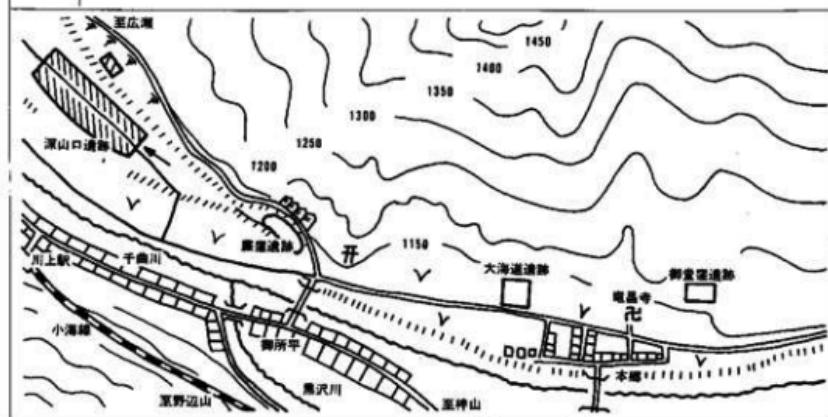
遺跡号	15	遺跡名	深山口	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畠	面積	70,000m <sup>2</sup>	時代	御文・平安	調査年月日	58年11月22日

字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
深山口	141-3	深山口	125-2	犬東屋	男易進子
	141-2		125-1	曾根保	久之武清
			124-2	井見井	井見井
			129-2	井井井	井井井
			126-1-119	吉田	吉田
	136-139		127-1	由由由	由由由
	135		128-1	由由由	由由由
	134		129-2	由由由	由由由
	138-2		121	由由由	由由由
	133		118	由由由	由由由
	131		115-104-1	由由由	由由由
	130			116	由由由
	125-4			117	由由由
	128-3			122	由由由
	129-1				吉吉吉

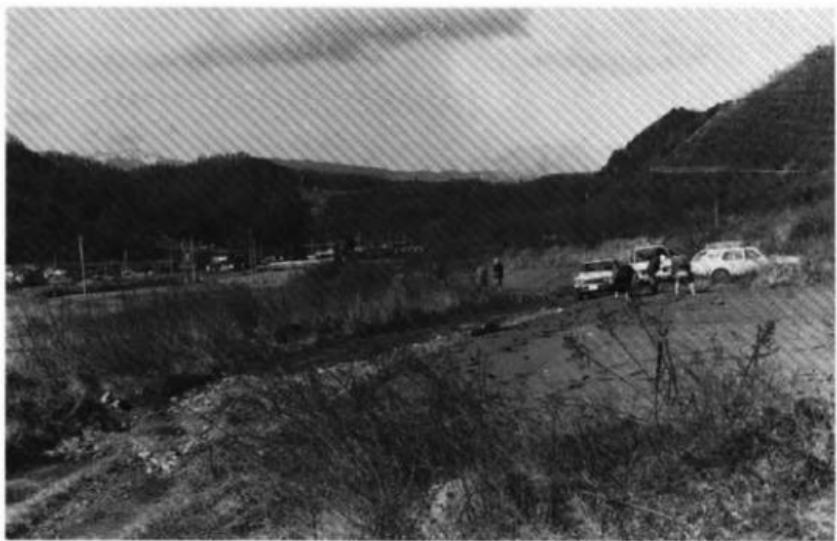
遺物	採集遺物	縄文後期土器片・多數・小形石鎌・磨石斧破片、上の段で十輪器片
	既出遺物	縄文土器 加曾利B(塙の内式) 打石斧・磨石斧・石鎌・石棒・石鎌 (吉沢時之助、吉沢秋人、由井貞夫、由井明、由井茂也所藏)

小海線信濃川上駅の対岸、下曲川右岸の山麓台地で、南面する細長い段丘面上に位置し、千曲川との比高5~10m、標高1,120m、川上村としては最も低地の遺跡である。東に接して蕨窪、さらに東方千曲川にそって大海道、御堂窪、上の段、官下、東原、大深山等の大きな遺跡が4kmの間にならんでいる。

この遺跡の延長は500mに及び、はやくからたくさんの中器石器を耕作の間に出土し、特に右棒の数が多いのが目立つ(無頭のものが多い)。打石斧は猿形のものが多い。



15 深山口遺跡



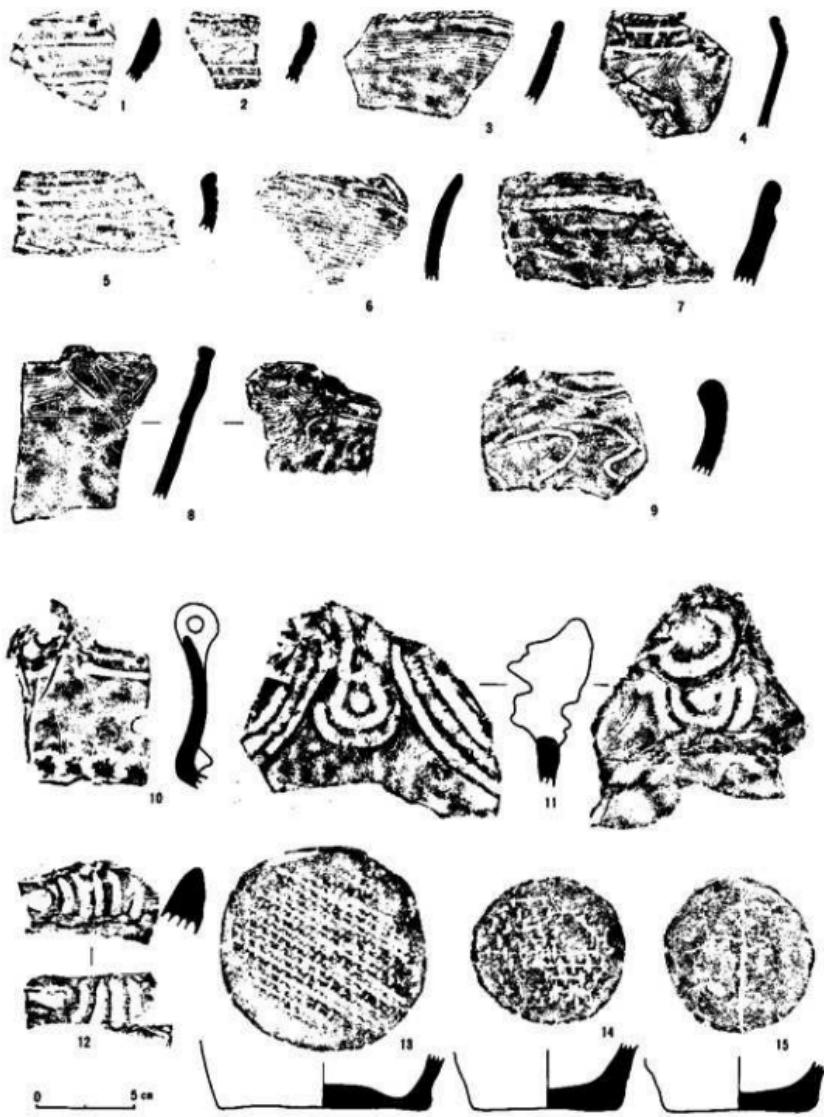
右上の道路は大歳峠の道



第15図 深山口遺跡採集土器拓影No.1 (1:3)



第16図 深山口遺跡採集土器拓影No 2 (1 : 3)

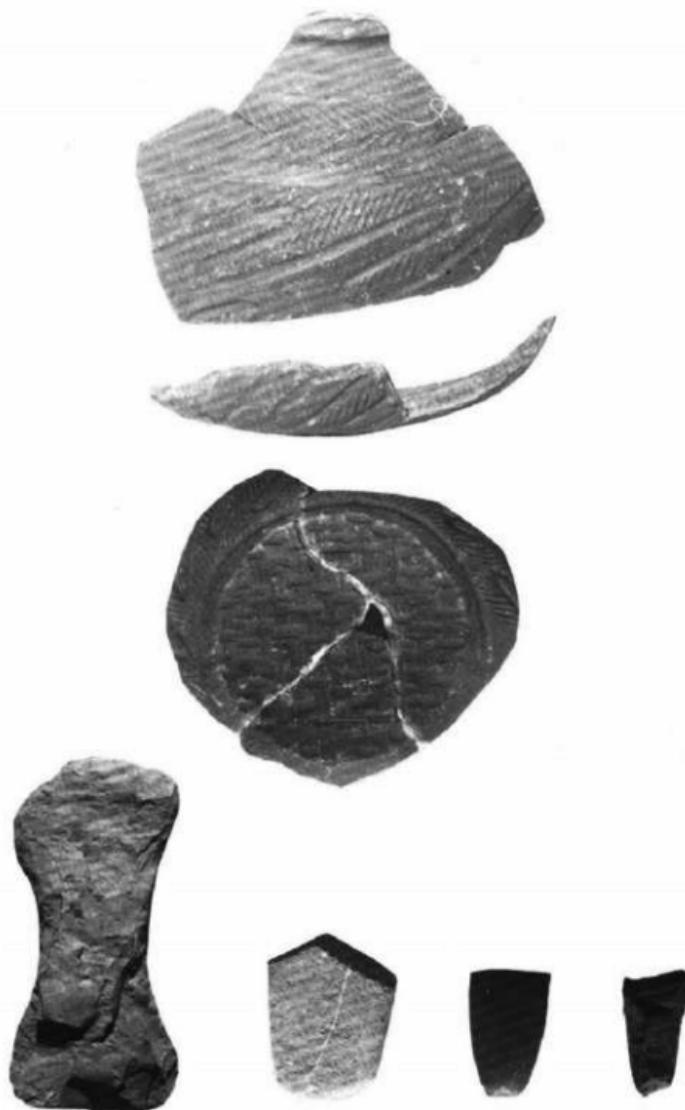


第17図 深山口遺跡採集土器拓影No.3 (1 : 3)

15 深山口遺跡採集土器 (1/4)



15 深山口遺跡採集土器(1/2)・石器(1/3)



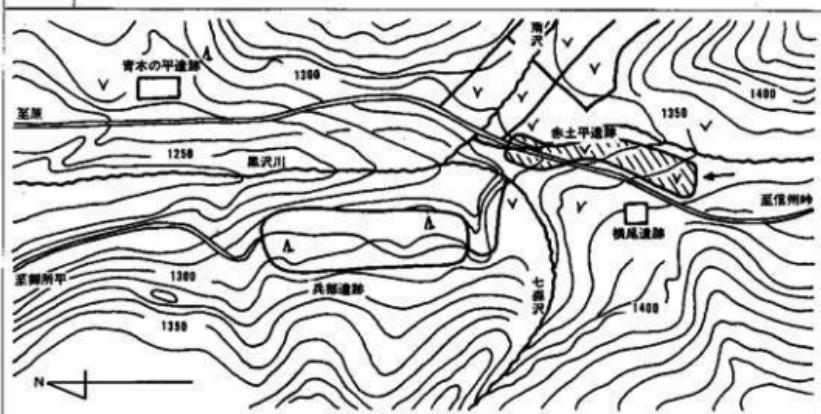
遺跡番号	16	遺跡名	兵 部	遺跡の種類	散 布 地	部落名	御 所 平
地 目	山 林	面 積	50,000m <sup>2</sup>	時 代	先 上 器 縄文・平安	調 査 年月日	58年11月18日
所在 地・土地所有者	兵 部	1879の1	御 所 平 林野保護組合	字 名	地 番	氏 名	
遺 物	採取 遺物						
	既 出 遺 物	ポイント・ナイフ・縄文土器・石鉄・土師器（糸切底・内面黒色） (由井祐太郎・山井明・山井茂也所蔵)					
位 置 地 形 環 境	信州峠付近に源を発して北流する黒沢川の左岸、女山の山麓線にそって、標高1,290m～1,300mの等高線ぞいにつくられた林道を中心に、南北1kmにわたって分布する。南に接して赤土平・横尾等の遺跡があり、東北方、黒沢川の対岸に青木の平遺跡がある。遺跡は山林に覆われていて、遺物は林道付近で発見されている。						

16 兵 部 遺 跡



前方の山すそ一帯が遺跡

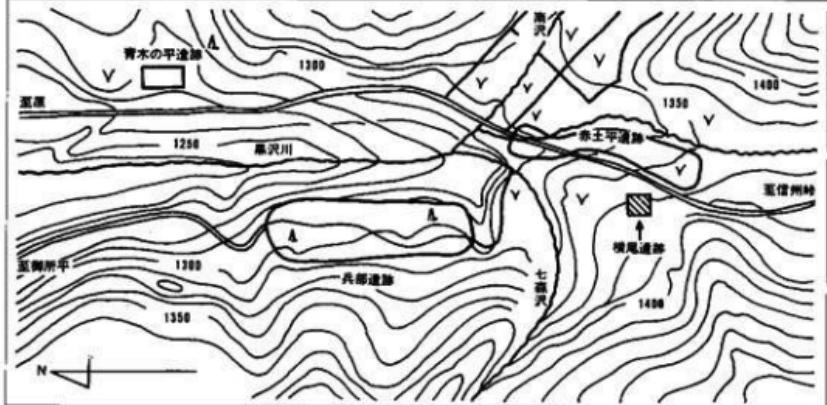
遺跡番号	17	遺跡名	赤土平	遺跡の種類		包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	32,000m <sup>2</sup>	時代	先土器 縄文・平安	調査年月日	58年11月18日	
所在地・土地所有者		字名	地番	氏名		字名	地番	氏名
		赤土平	195-196	井出純大		赤上平	185-1	新海忠尚
			192	渡辺文雄			181	中島悦二
			189-2	杉山勉			174-1	田中喜知典
			189-3	渡辺友重			137	杉山和典
			186-1	林保夫				
			186-2	杉山憲一				
			186-3	渡辺寅太郎				
			185-3	山井寿秋				
			185-2	新海元尚				
遺物	採集遺物	黒曜石片18						
既出遺物		ポイント・スクレーパー(水晶製石器が多い)、縄文前期(諸磯B)、石錐、打製石斧1				(由井満・由井茂也所蔵)		
位置地形環境		信州嶺の北麓で、原部落から信州嶺を越えて、甲州小尾に通じる道路と、黒沢川最上流の綾流との間に巾(東西)20~30m、長さ約900mにわたる南北に細長い遺跡である。北に接して兵部、西方の道上に横尾遺跡があり、北方約2kmに青木の平遺跡がある。遺跡の標高は1,300mから1,350mにわたる。 古くは牧場地帯で、遺跡名も牧場遺跡とよばれていたものである。現在は農地改良の客土が全面に行われている。						



17 赤土平遺跡



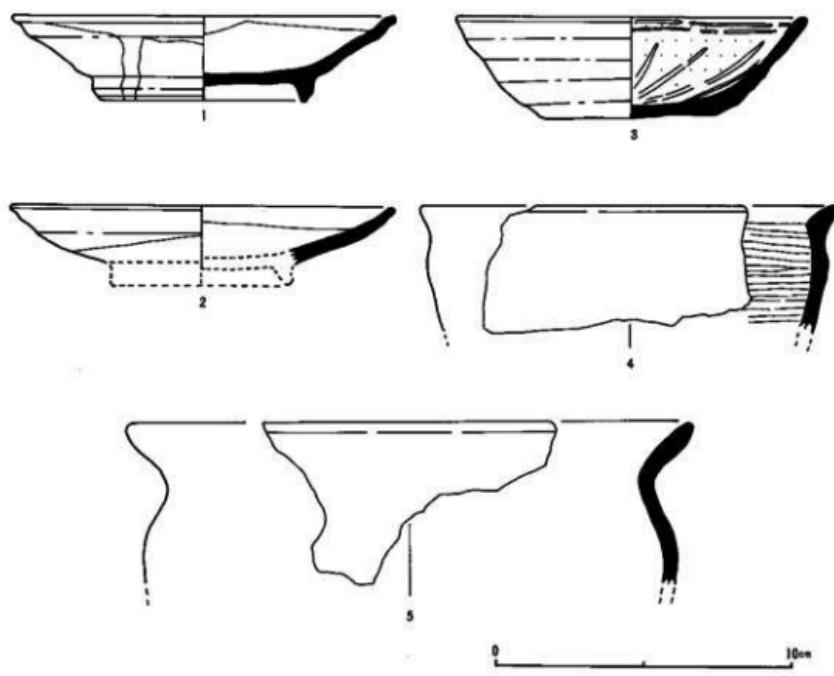
遺跡号	18	遺跡名	横尾	遺跡の種類		包蔵地	部落名	御所平
地目	畑・道路	面積	1,000m <sup>2</sup>	時代	平安	調査年月日	58年11月18日	
所在地・土地所有者	字名 横尾	地番 148 154 155	氏名 渡辺智昭 渡辺長市	字名	地番	氏名		
遺物	採集遺物							
既出遺物		土師甕2、須恵、灰釉陶器、高台付杯2、焼失床張住居址1、集石遺構1、土壤1、木材炭化物、土師杯(内黒)2 (川上村教育委員会所蔵)						
位置地形環境		御所平から黒沢川ぞいに信州峠を越えて甲州徳坂路に通する古来の交通路にそって、信州峠の北方山麓標高1,360mの北東面する緩傾斜地に位置する。昭和49年川上村教育委員会によって、開畑に伴う緊急発掘調査が行われ、土師(四分式)、須恵、灰釉陶器を伴う、板張りの床をもつ焼失住居址一棟が検出された。平安時代の高距集落址として注目すべき遺跡である。						



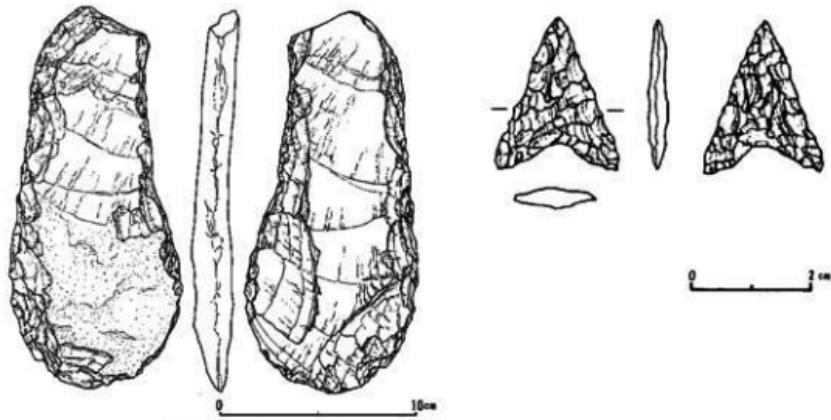
18 横尾遺跡



遺跡は道路を中心左右の畠地に及ぶ

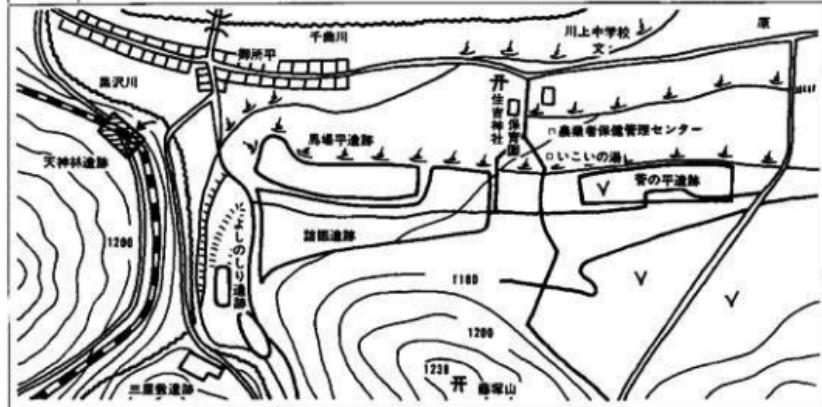


第18図 横尾遺跡H1号住居址出土土器実測図(1:2)  
(1・2 直形土器[灰釉陶器]、3 杯形土器[内面黒色]、4・5 变形土器)



第19図 赤土平遺跡採集石器実測図  
(1. 打製石斧1:3[由井満所藏]、2. 石鎌1:1[由井茂也所藏])

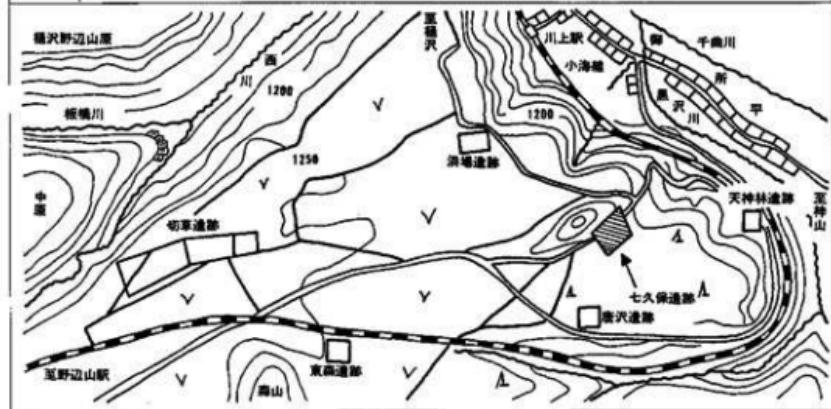
遺跡番号	19	遺跡名	天神林	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	鉄道線路 道路・山林	面積	500m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者	天神林	1,670	由井敏一 1,675 山井保雄		字名 地番 氏名	字名 地番 氏名	
遺物	採集遺物						
既出遺物	既出遺物	縄文土器・石皿（由井茂也所蔵）					
位置	御所平部落の南方、黒沢川を渡って埋原・野辺山原に通じる道路が次第に高さを増して、小海線のガードをくぐった付近に、道路と鉄道線路にまたがって大神林遺跡が存在する。						
地形	昭和7年ごろ小海線の線路敷設工事の際、縄文土器と石皿が発見されたが、現在はその中心部分は鉄道と道路の敷地となっている。標高1,180m、東方眼下には黒沢川をこえて、馬場平・詰壠・よしのしり等の遺跡があり、西方台地上に上がれば唐沢・七久保・浜場等の遺跡がある。段丘崖中腹の遺跡である。						
環境							



19 天神林遺跡



遺跡番号	20	遺跡名	七久保	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畠・山林	面積	3,000m <sup>2</sup>	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者	字名 東坂上	地番 1,692-2 1,744 1,741	氏名 由井好文 由井暎一 中島喜夫	字名	地番	氏名	
遺物	採集遺物						
	既出遺物	縄文土器・石鐵・打石斧（由井好文所蔵） 土器鉢（内面黒色・暗文墨書き）	（由井明所蔵）				
位置地形環境	天神林遺跡の西方約600m、埋原の台地上に達する、本遺跡は埋原台地の東端入口に位置する遺跡である。標高1,230m~1,240mの間にあって、東北に緩傾斜する、ゆるやかな沢をなす。遺跡は道路をはさんだ両側の畠地と山林を含み、浜場方面への道路の分岐点付近から道路掠巾の際、内面黒色暗文をもつ墨書き土器（杯）を出土している。台地上には南に唐沢、西北に浜場等の遺跡がある。						

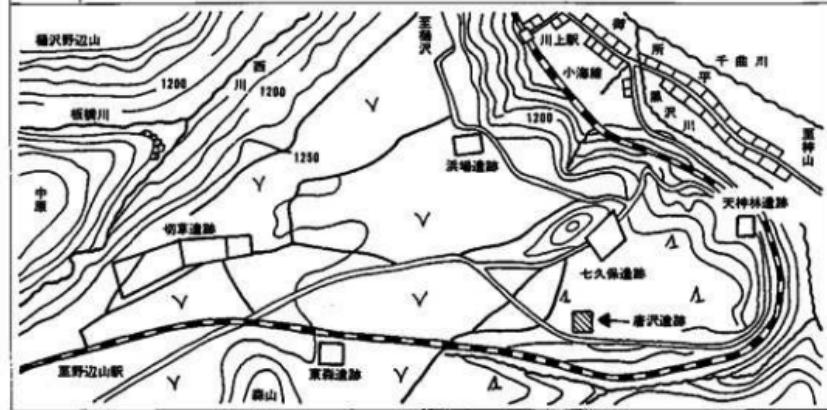


20 七久保遺跡



道路をはさんで左右の畑と山林が遺跡

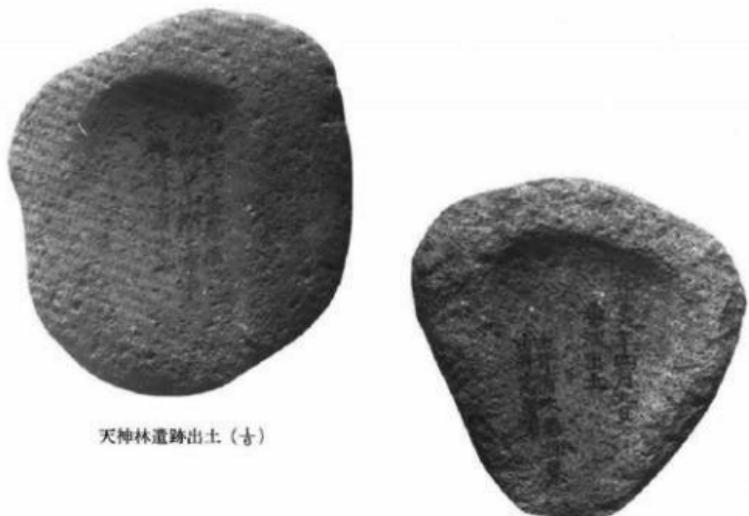
遺跡番号	21	遺跡名	唐沢	遺跡の種類	包藏地	部落名	御所平
地目	畑・山林	面積	30,000m <sup>2</sup>	時代	先土器・縄文	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者	字名 唐沢	地番 1,700-イ-1 1,700-イ-2 1,696-ロ 1,696-ハ 1,706-21 1,706-25	氏名 由井 敬作 " " 今枝 盛太 " 由井 嘉久 由井 式辛	字名 地番 1,700-イ-1 1,700-イ-2 1,696-ロ 1,696-ハ 1,706-21 1,706-25	氏名 由井 敬作 " " 今枝 盛太 " 由井 嘉久 由井 式辛		
遺物	採集遺物						
	既出遺物	ポイント・ナイフ、縄文中期土器・石皿・打製石斧 (由井明・由井一昭・由井茂也所蔵)					
位置地形環境	御所平から埋原に上る道路が小海線にそって黒沢川を眼下にしながら東から西に大きく迂回して、埋原の台地上に達したところ、道路の北側の畠地と付近一帯が唐沢遺跡である。過去に道路わきより土器・石皿が出土し、畑を開くときポイント・ナイフ形石器を発見した。北に七久保遺跡、西北方に浜場遺跡がある。						



21 唐沢遺跡



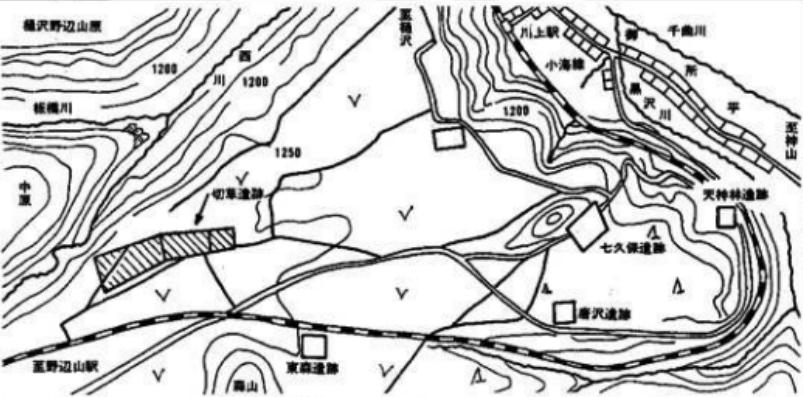
21 唐沢遺跡出土石器 (一)



天神林遺跡出土 (二)

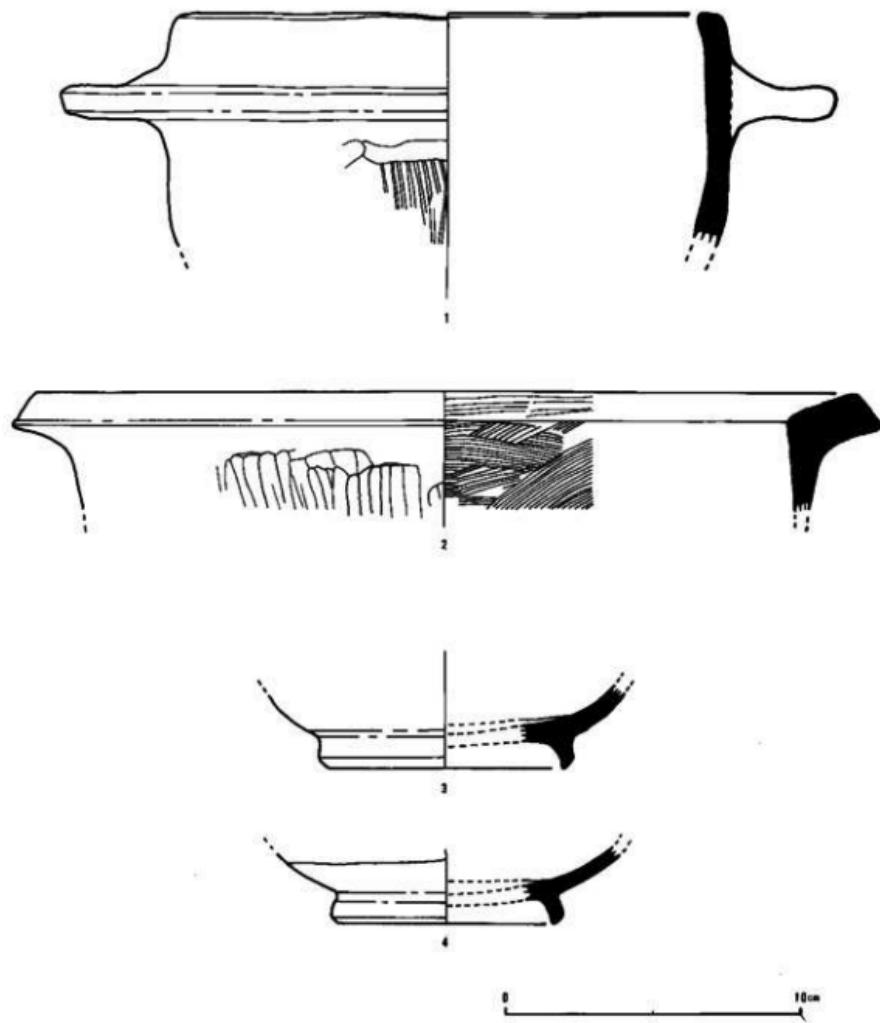


遺跡番号	22	遺跡名	切草	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畠	面積	40,000m <sup>2</sup>	時代	先史器・縄文 弥生・平安	調査年月日	58年11月25日
所在地・土地所有者	字名 切草	地番 1,832-11 1,832-10 1,832-6 1,831-39 1,831-38 1,830-1 1,830-2 1,830-4 1,830-3	氏名 由井祐太郎 " " 由井重治 由井庸云 山井久俊 由井敏一 " 中島晋雄 由井昭彦	字名 切草	地番 1,830-5 1,830-6	氏名 山井茂徳 由井正治	
遺物	採集遺物						
	既出遺物	ポイント・ナイフ・スクレーパー・石匙・弥生磨石鏡3・土師甕・銅釜1 須恵・灰釉高台付杯2	(由井茂也・山井明・由井祐太郎・由井昭彦蔵)				
位置地形環境	広大な埋原の西部に位置し、西方西川(矢出川)の深い渓谷を越えた対岸には、南牧村野辺山原の中原遺跡がある。台地上西に接して、日影遺跡、その西南に西の腰・柏平等の大遺跡が連続している。東方には浜場、七久保、唐沢、東森等の遺跡が台地上に点在している。高原野菜の畠地開発によって遺跡の存在が知られるようになった。						



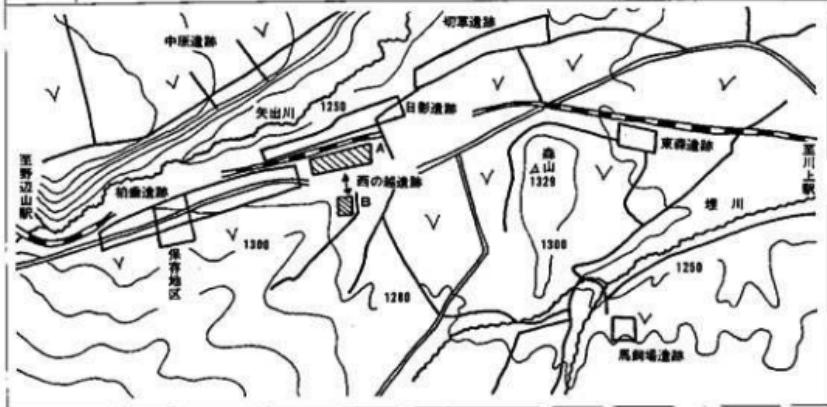
22 切草遺跡





第20図 切草遺跡採集土器実測図 (1:2)  
 (1 羽釜、2 瓈形土器、3・4 瓈形土器〔灰釉陶器〕)  
 (由井茂也所藏)

遺跡番号	23	遺跡名	西の腰	遺跡の種類		包含地	部落名	御所平
地目	畠	面積	40,000m <sup>2</sup>	時代	先土器繩文	調査年月日	58年11月25日	
所在地・土地所有者	西の越	字名	地番	氏名	西の腰	字名	地番	氏名
		1,836-54	由井直治		1,835-50	清水元		
		1,836-53	由井清次		1,835-53	由井章隆		
		1,836-41	由井若栗		1,835-52	新海吉夫		
		1,836-39	由井盛雄		1,837-14	由井當三郎		
		"	由井明義		1,835-40	由井二平		
		1,835-39	由井貞大		1,835-43	"		
		1,835-48	由井徳人		1,835-49	由井ちかえ		
		1,837-15	由井誠		1,837-12	由井徳人		
		1,835-51	由井欽治					
遺物	採集遺物	ナイフ形石器1・石鐵(有柄)・黒曜石1・チャート5・石英1						
	既出遺物	ポイント・スクレーパー・ナイフ形石器・石核・石鐵 (山井明・由井茂也・山井一昭所蔵)						
位置地形環境	埋原西部の中心、小海線と村道川上野辺山線にはさまれた地帯で、もと凹地と微高地があつたが現在は削平して平坦な一面の高原野菜畑となっている。やや南によつた丘地点からもポイント・ナイフ等の出土が多い。西に柏垂、北に日影・切草等の著名な諸遺跡が連続している。かつては凹地部分に湧水があったものと考えられる。							



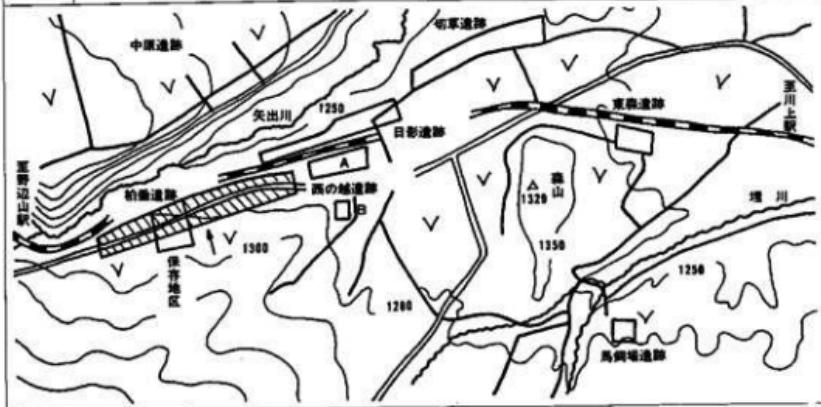
23 西の越遺跡



遺跡号	24	遺跡名	柏垂	遺跡の種類	包藏地	部落名	御所平
地目	畑・山林	面積	150,000m <sup>2</sup>	時代	先土器绳文	調査年月日	58年11月25日

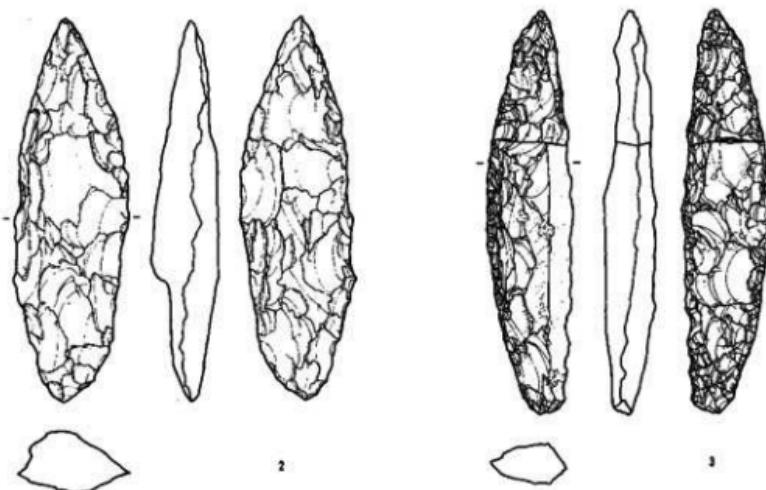
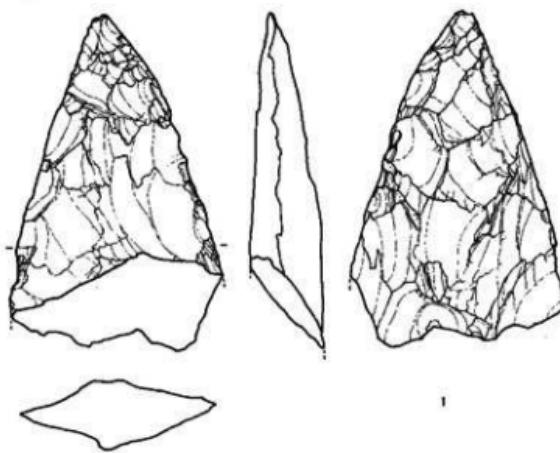
遺物	採集遺物	ポイント(水晶)・ナイフ・縄文前期土器
	既出遺物	石核・ポイント・ナイフ形石器・スクレーパー・彫刻器・縄文土器(前期) (土屋忠芳・由井一昭・由井明・山井茂也所蔵)

位置	埋原の西端に位置し、北は小海線路を限り、南は丘陵のそまで、村道川上野辺山線（農面道路）をはさんで南北市約130m、東西延長約1kmにわたる大遺跡で、中に30,000m <sup>2</sup> の保存地区を設けている。はやくから石器の出土が知られていたが、昭和28年由井茂也・芹沢長介氏が矢出川の細石刃探査にいく途中で、旧石器の存在を確認した。昭和47年川上村教育委員会の事業として東北大考古学研究室の芹沢長介氏によって発掘調査が行われた。
地形	
環境	



24 柏 垂 遺 跡

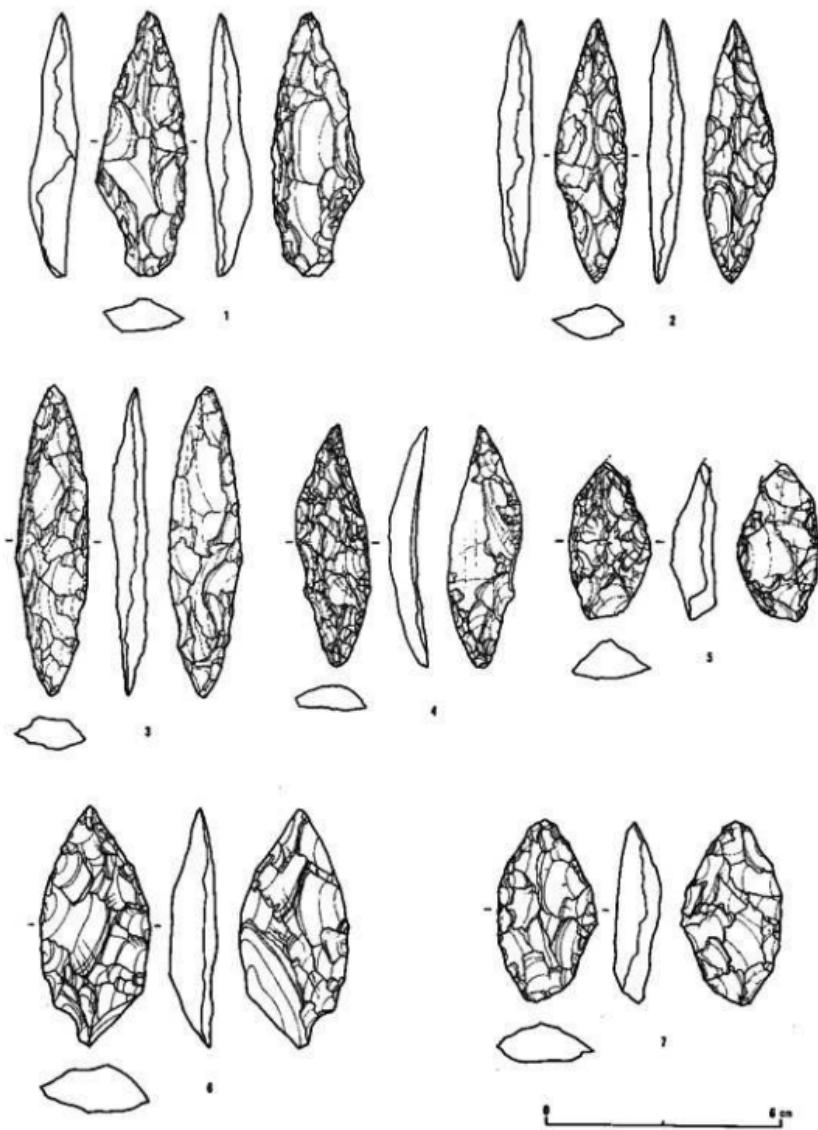




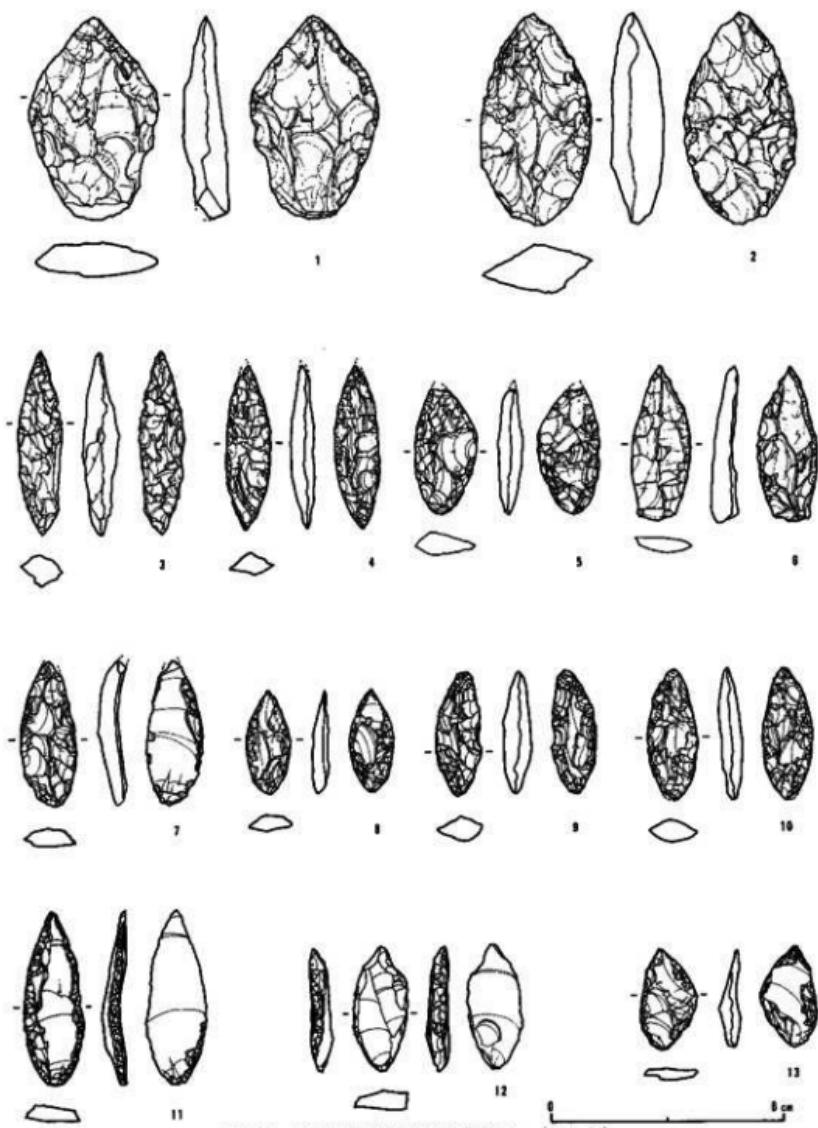
1 cm

第21図 柏遺跡採集石器実測図No.1 (2:3)

1~3 槍先形尖頭器 (山井一昭所蔵)



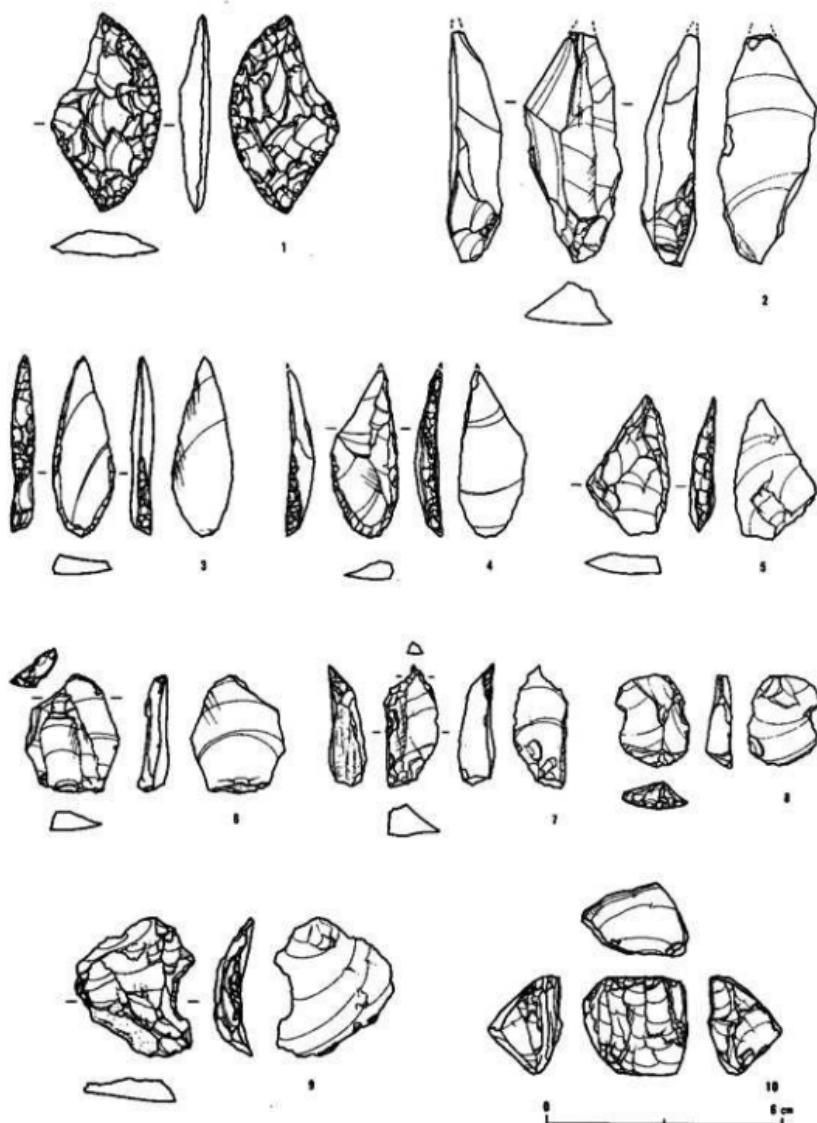
第22図 柏原遠跡採集石器実測図No.2 1~7 槍先形尖頭器  
(1, 3, 5~7 由井 明、2, 4 由井・昭所藏)



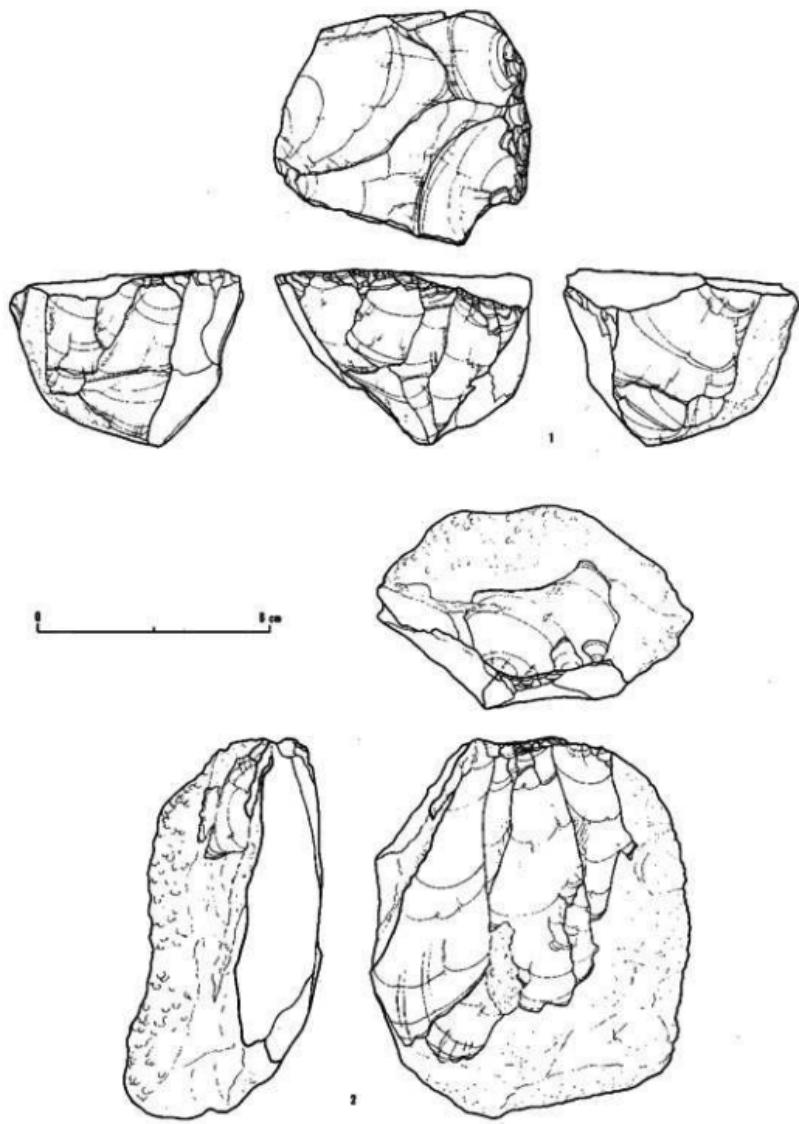
第23図 柏垂遺跡採集石器実測図No.3 (2:3)

1~13: 榎先形尖頭器

(1, 4~6, 9, 10, 13 由井 明、2, 3, 7, 8, 11, 12 由井一昭所蔵)



第24図 柏垂遺跡採集石器実測図No.4 (2:3) 1. 彫器 2~6 ナイフ形石器 7 石錐 8 搓器  
9 削器 10 細石刃核 (1 由井一昭 2~10 由井 明所蔵)

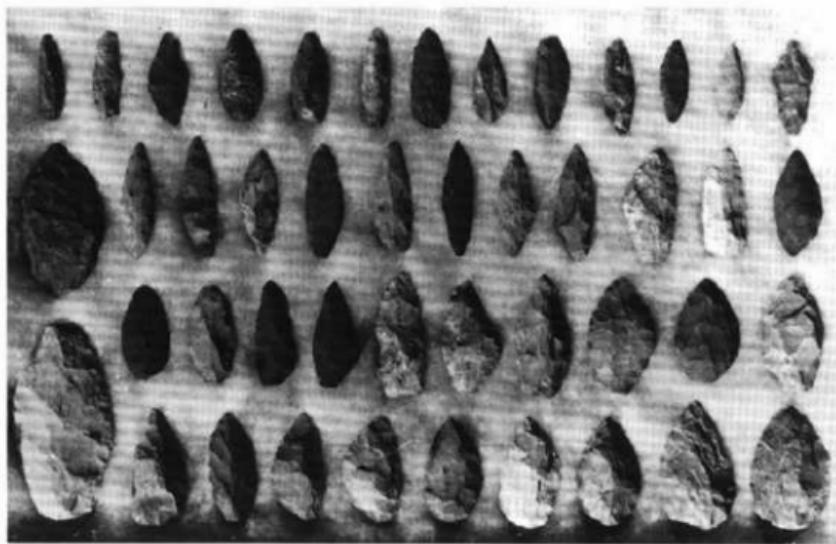
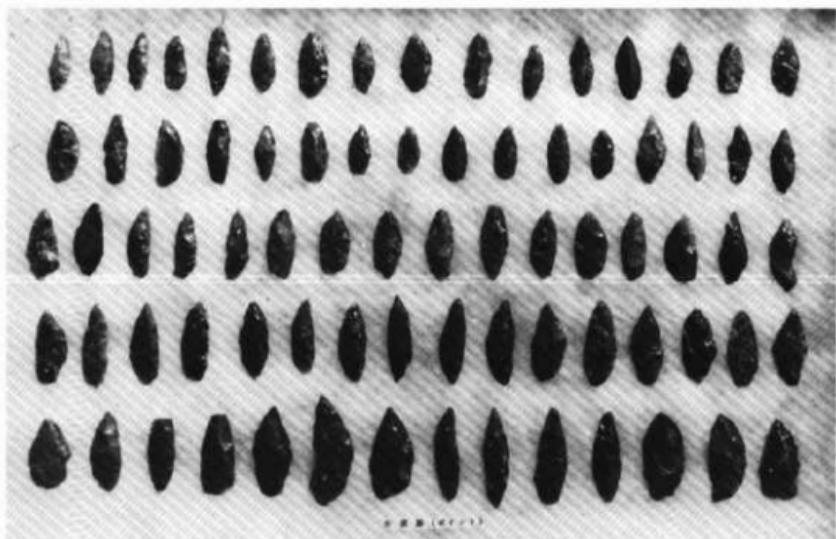


第25圖 柏崖遺跡採集石器實測圖No.5 (2:3)

1. 2. 石核 (由井 明所藏)

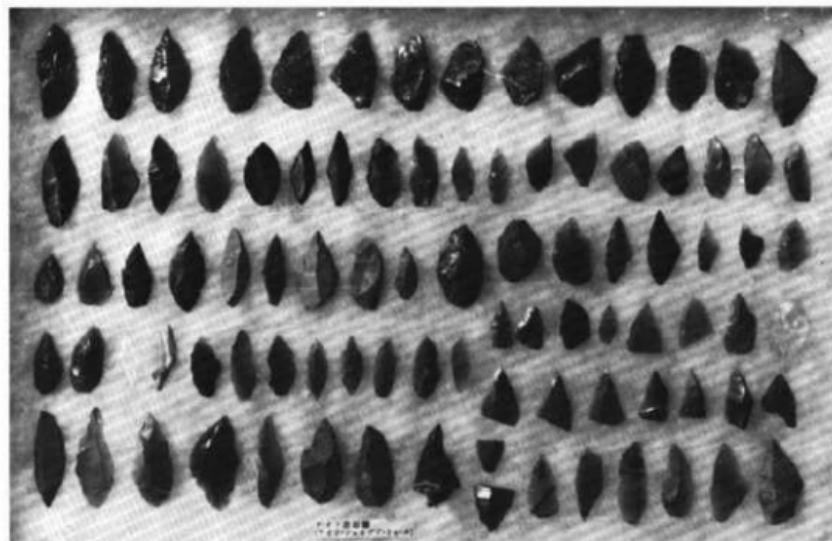
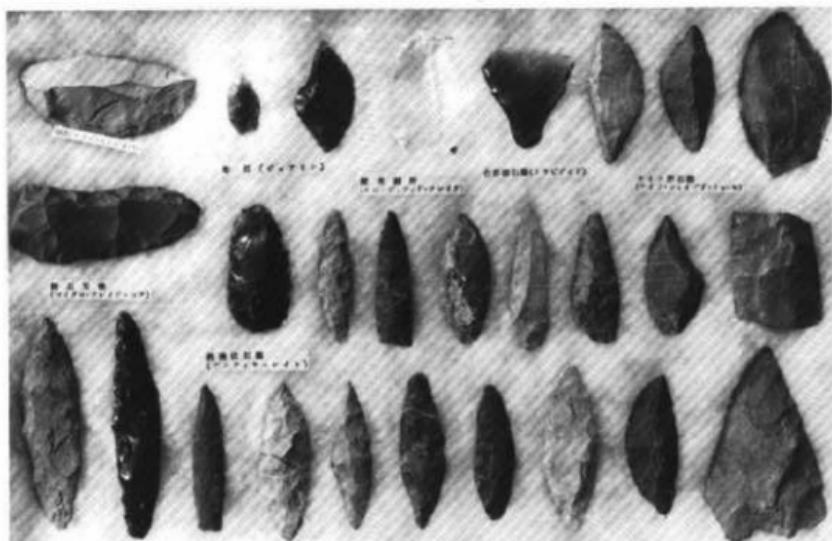
24 柏垂遺跡採集石器 ( $\frac{1}{3}$ )

由井一昭所藏



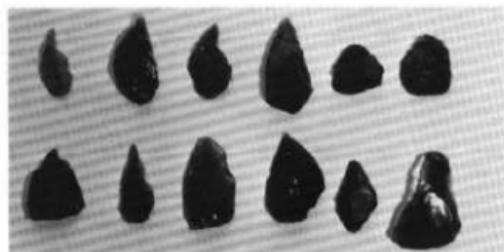
## 24 柏垂遺跡採集石器 (1/3)

由井一昭所藏

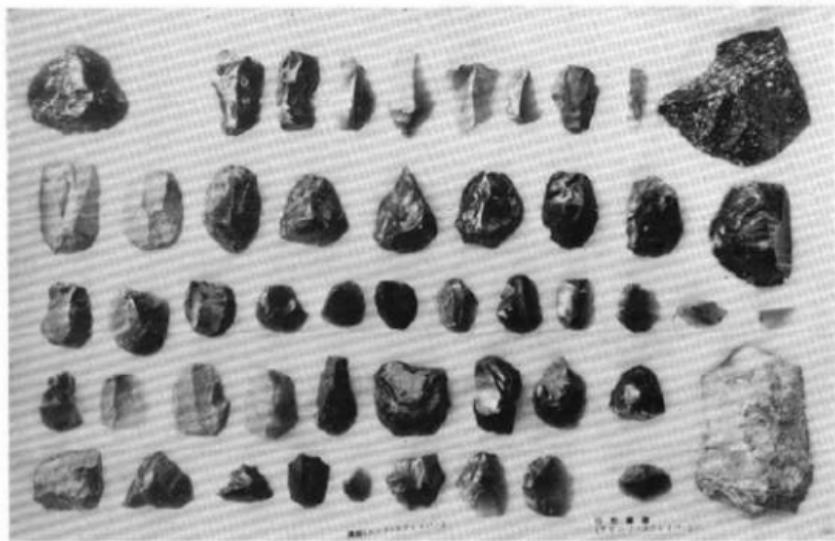


24 柏垂遺跡採集石器 (1/3)

由井 昭所藏

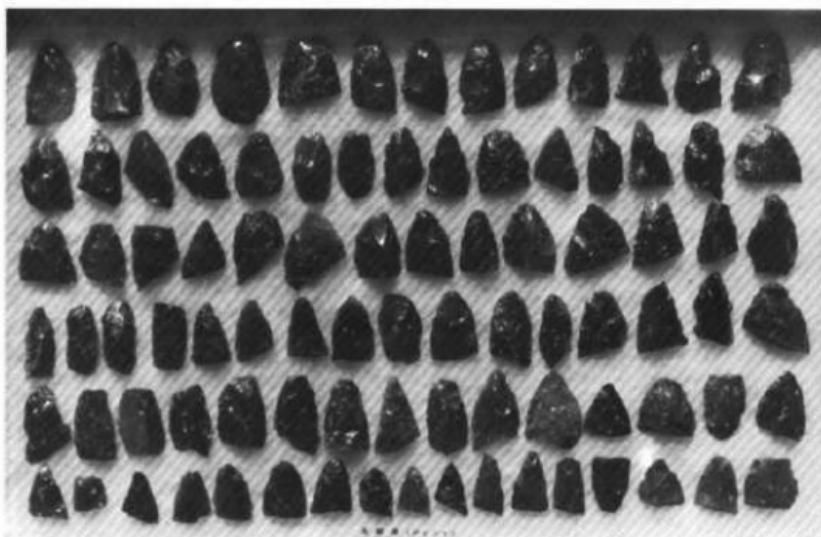


由井一昭所藏

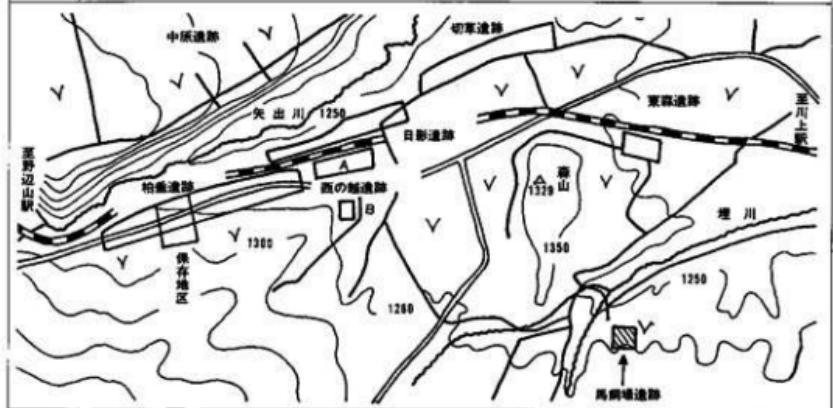


24 柏垂遺跡採集石器 (1/3)

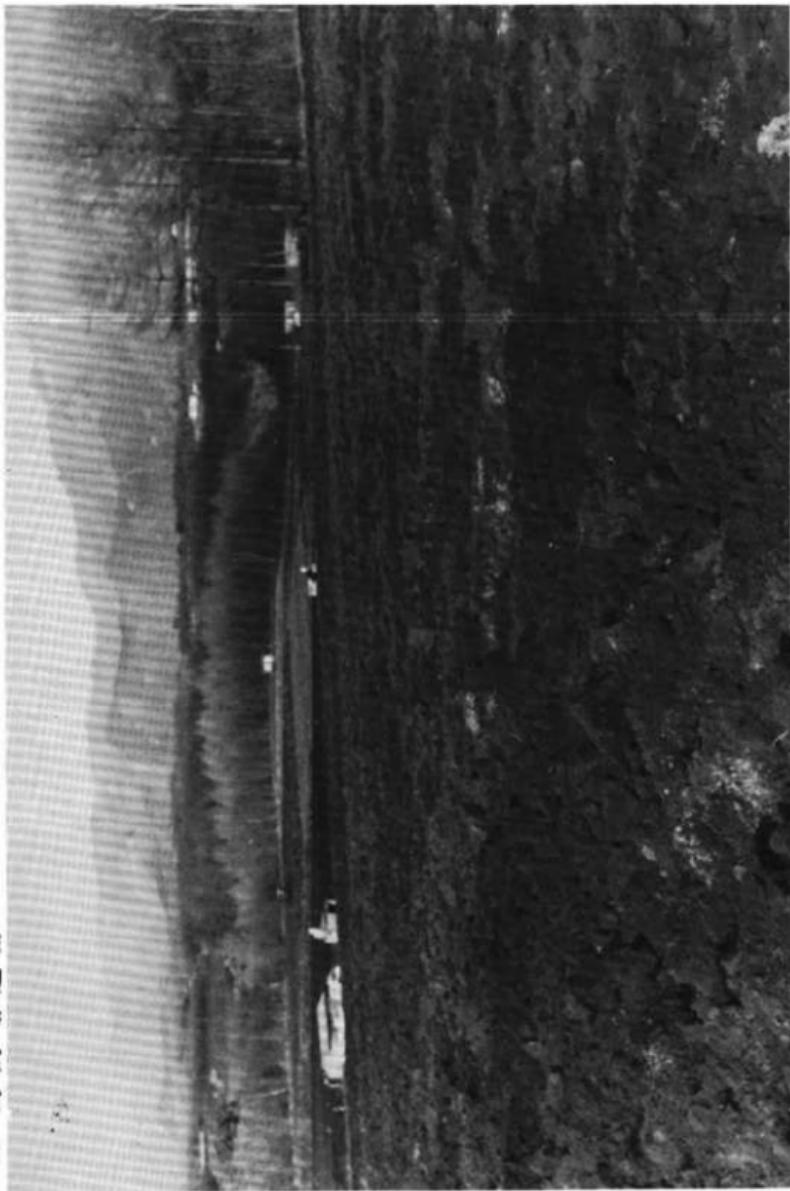
由井一昭所藏



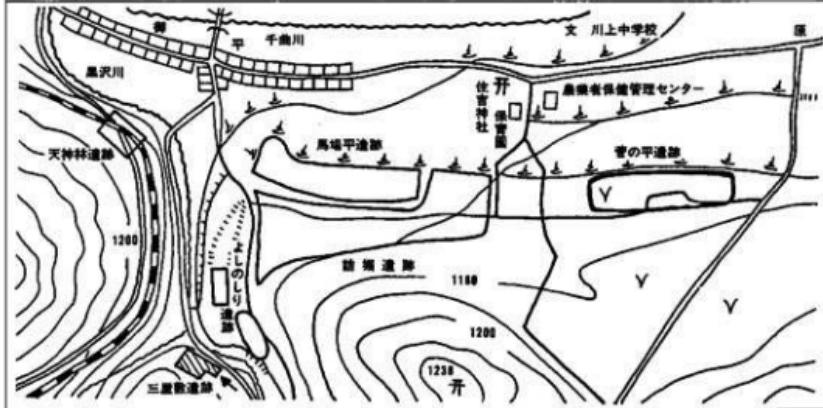
遺跡号	25	遺跡名	馬糞場	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畠	面積	30,000m <sup>2</sup>	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月25日
所在地・土地所有者	字名 馬糞場 番号 15 1,844-44	地番 由井清次 新海徳雄	氏名	字名	地番	氏名	
遺物	採集遺物	土師器破片2					
既出遺物	縄文(中期)土器・土師器杯(内面黒色・暗文・糸切・高台付)・灰釉陶器・須恵器	(由井明・由井茂也所蔵)					
位置地形環境	埋原の中央、森山の東南の沢で、埋沢川を渡った右岸の山麓台地上に位置する。標高1,260m、北に緩傾斜する古地で、前面段丘下を埋沢川が流れている。もと山林であったが、高原野菜の畠を開く際に遺物が発見された。						



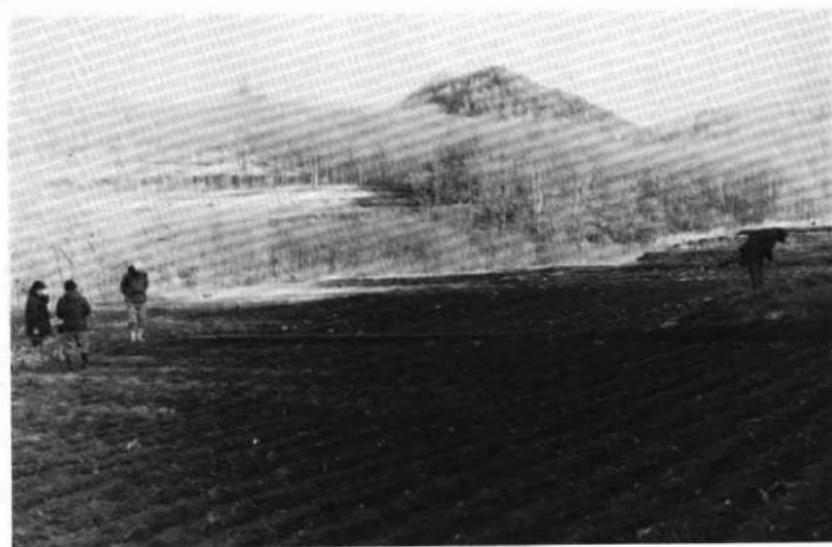
25 馬銅場遺跡

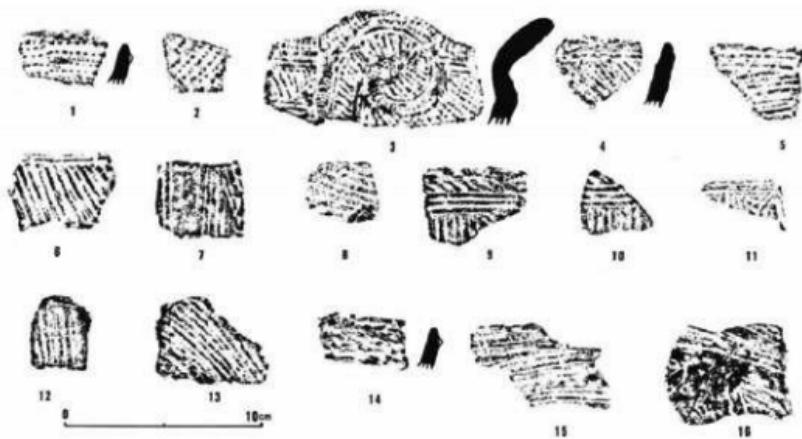


遺跡番号	26	遺跡名	三重敷	遺跡の種類	包藏地	部落名	御所平
地目	畑	面積	1,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者		字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	西黒沢	1,503	由井文次郎				
		1,502	由井式彰				
		1,503	"				
		1,504	由井雅彦				
遺物	採集遺物						
遺物	既出遺物	縄文土器	早期	押形文(山形)・前期	諸磯・中期	籠畠、石錐	(由井明・由井茂也所蔵)
位置地形環境	御所平部落の南方、黒沢川と埋沢川の合流点で、両川にはさまれた山麓台地の先端に位置する。南方背後は女山(1,734m)を中心とする深い山林地帯である。埋沢川をこえた西北方には、埋原台地の段丘崖(比高50m)がまじかに迫っている。東北方黒沢川の対岸は、馬場平・詰壠等の大遺跡の所在する段丘が目前に展開していて、段丘南端のよしのしり遺跡とは150mほどの距離で相対している。明治初年開田の跡たくさんの土器・石器が出土したと伝えられているが、現在は高原野菜畠となっている。中世黒沢氏の屋敷跡との伝承がある。						

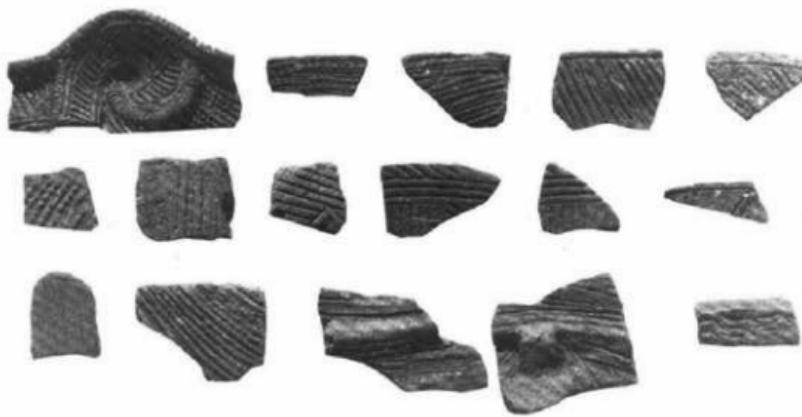


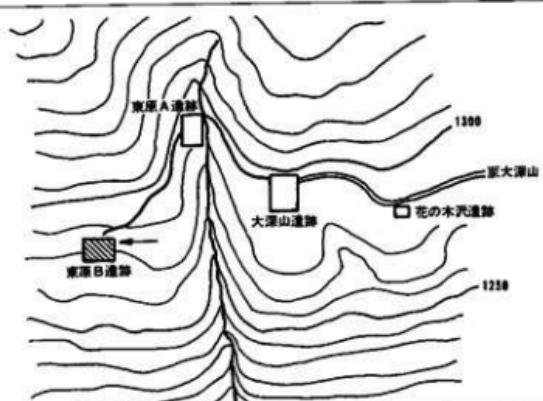
26 三屋敷遺跡





第26圖 三層敷道跨塚集土器拓影 (1 : 3)



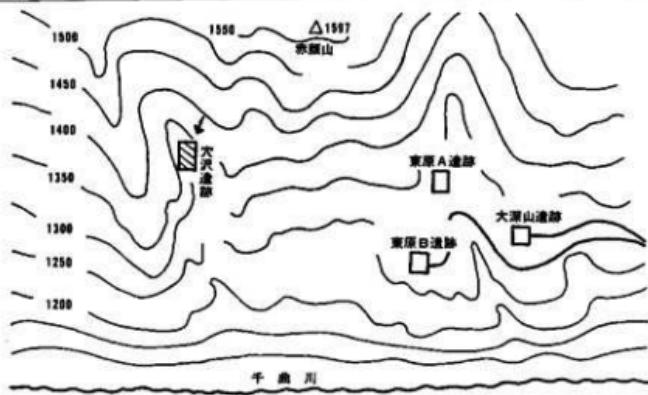
遺番 路号	27	遺跡名	東原B (石橋向)	遺跡の種類	包藏地	部落名	原
地目	畑	面積	20,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月21日
所在地・土地所有者	字名 東原	地番 1,457	氏名 中島 宝	字名 地番	氏名		
遺物	採集遺物	黒曜石5					
	既出遺物	縄文中期土器(由井港所蔵)					
位置	大深山遺跡と西原沢をへだてて、その西方50mにある。北方100mの上方には東原A遺跡がある。赤嶺山(1,597.9m)の山麓で、標高1,270mの南面する台地上に位置する遺跡である。戦後開田の際土器が発見されたが、現在は高原野菜の畠地となっている。						
地形環境							
							

27 東原日遺跡



遺跡番号	28	遺跡名	穴沢	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	山林	面積	1,000m <sup>2</sup>	時代	先土器	調査年月日	58年11月21日
所在地・土地所有者	穴沢	地番	608	氏名	川上村	字名	地番

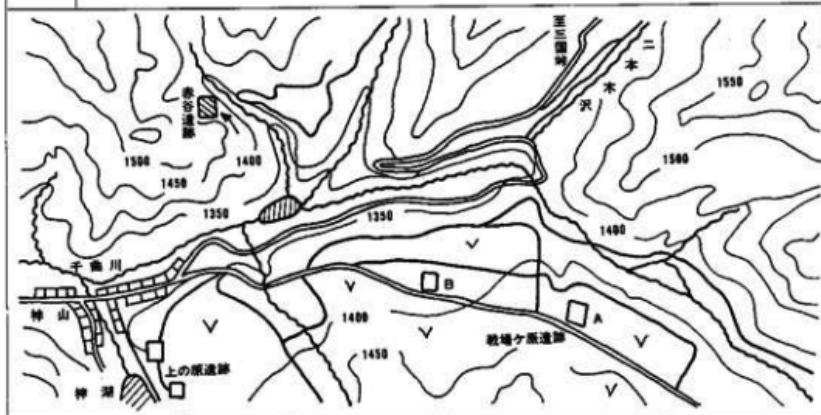
遺物	採集遺物
	既出遺物 ポイント(ハリ質安山岩)
位置	赤頭山西側の急峻な峡谷の中にあり、湧水がある。昭和初年製炭窯を構築中に馬場平型のポイントが発見された。峰近くに保科五無齊が電気石、ならびに水晶を掘った跡の洞窟がある。東方約1kmの間に東原A・B、大深山等の遺跡がある。
地形	
環境	



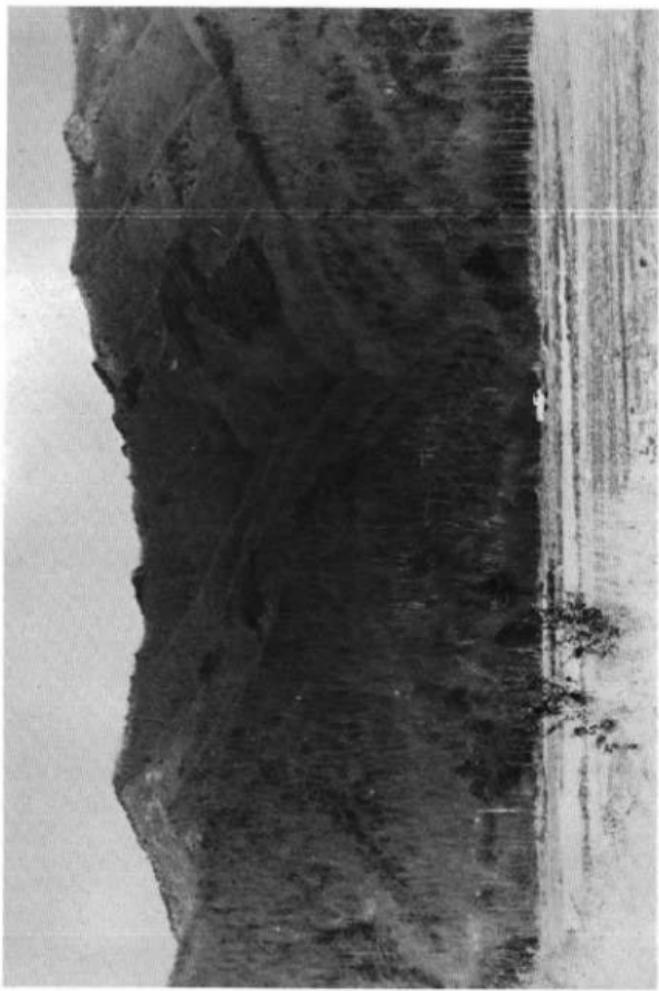
28 穴 沢 遺 蹤



遺 跡 番 号	29	遺跡名	赤 谷	遺跡の種類	散布地	部落名	梓 山
地 目	山 林	面 積	3,000m <sup>2</sup>	時 代	縄 文	調査年月日	58年11月16日
所在 地・ 土地 所有者	字 名	地 番	氏 名		字 名	地 番	氏 名
	赤谷	58-15	関 決 次				
		58-28	"				
		58-31	"				
遺 物	採集遺物						
既出遺物		石 錢 (関決次氏採集)					
位置	梓山部落の東北方、扇平山(1,700m)の東南山麓の谷間をさかのぼった標高1,430mの東南面する緩傾斜地にある。かつて関決次氏がソバや雑穀をつくり、頬耕地には桑を植えていて、耕作中に石錢を発見した。現在は山林となっている。						
地形 環境							

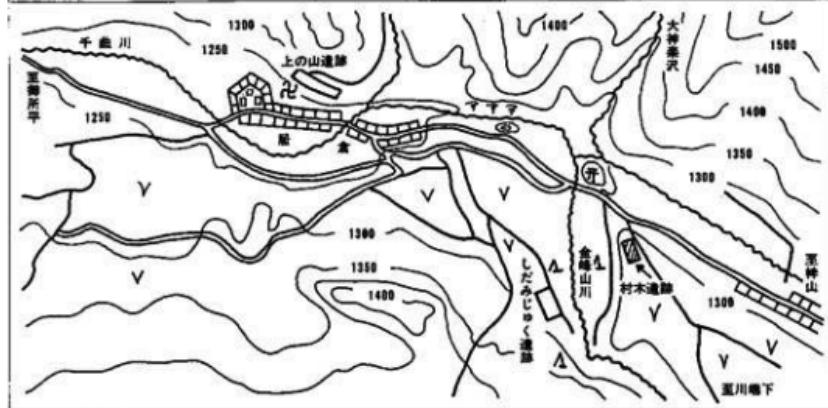


29 赤 谷



遺跡は左手前方の尾根のかげ

遺跡号	30	遺跡名	村木	遺跡の種類	散布地	部落名	秋山
地目	烟	面積	3,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月17日
所在地・土地所有者	字名 村木	地番 296	氏名 川上　源	字名	地番	氏名	
遺物	採集遺物						
既出遺物	石鐵（黒曜石）						
位置	秋山部落南方、比高50mの広大な秋山台地の西北端に位置する。遺跡の下方、東北方500mで千曲川と金峰山川が合流している。本遺跡の西方約500m、金峰山川の西岸にしだみじゅく遺跡がある。昭和30年代に耕作者（川上もり子）が石鐵を採集している。標高1,310m。						
地形環境							



30 村木遺跡



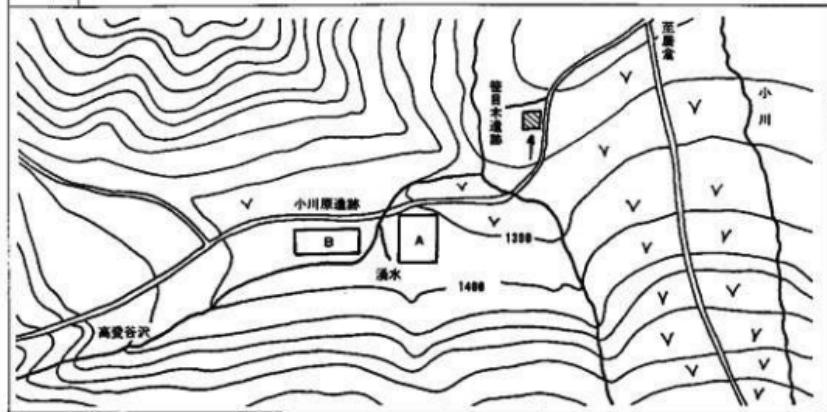
遺跡番号	31	遺跡名	上の山	遺跡の種類	散布地	部落名	居倉
地目	畠・墓地 屋敷	面積	5,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月17日
所在地・土地所有者	字名 上の山	地番 1,611-1 1,610 1,603 1,609	氏名 遠藤高次 赤堀直太郎 原三郎 "	字名	地番	氏名	
遺物	採集遺物						
既出遺物	石器						
位置	居倉部落の北方、宗泉寺（曹洞宗）の背後にある山麓台地に位置する。標高1,250m、南面する台地で、前面に居倉部落があり、千曲川がめぐっている。背後は岩山で、松林である。古くから学童たちによって石器が採集されていた。						
地形環境							

31 上の山遺跡



遺跡番号	32	遺跡名	笠日本	遺跡の種類		散布地	部落名	居合
地目	畑	面積	2,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月26日	
所在地・土地所有者					字名	地番	氏名	
	中原 20-4 伊藤綱雄				字名	地番	氏名	

遺物	採集遺物	
	既出遺物	石皿（由井港所蔵） 縄文中期土器
位置	小川山麓の高原台地の中原の西方に位置し、高登谷沢の入口付近にあたる。西方は高登谷沢から流れだす溪流が北流している。川の上流300mに小川原遺跡がある。 耕作中に縄文中期土器と石皿が発見されている。	
地形環境		



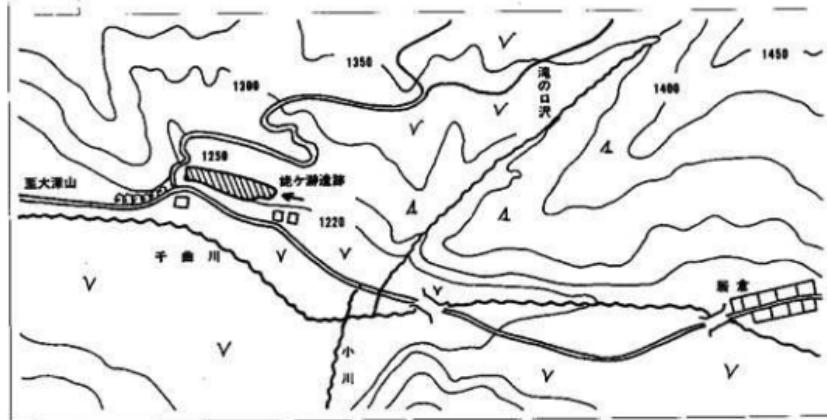
32 笹目木遺跡



遺番 路号	33	遺跡名	姥ヶ瀬	遺跡の種類	包蔵地	部落名	居倉
地目	畠	面積	3,000m <sup>2</sup>	時代	平安	調査年月日	58年11月21日
所在地・土地所有者	字名 うばがと	地番 1,008-1 1,010-4	氏名 新海作治 "	字名	地番	氏名	

遺物	採集遺物	土師器10点（杯、内面黒色等）
	既出遺物	土師器杯（内黒）（由井茂也所藏）

位置	居倉部落の西方、大深山部落との間の滝の口沢の出口の西方約300m、県道の北方、比高約10mの細長い山麓の小台地上に位置する。標高1,220mの南面する台地で、前面に千曲川が流れ、背後は大門峠を越え、南相木村中島に通じる。遺跡の中央の山根に湧水がある。
地形	
環境	

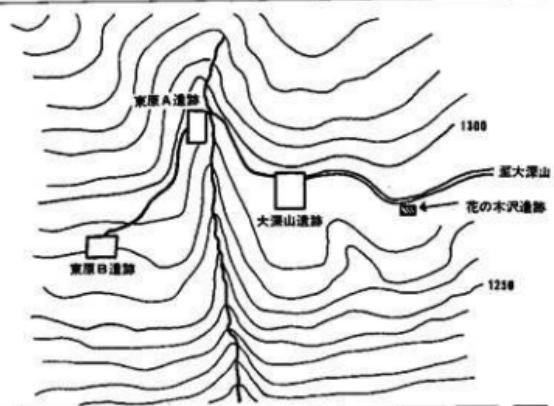


33 姥ヶ瀬遺跡

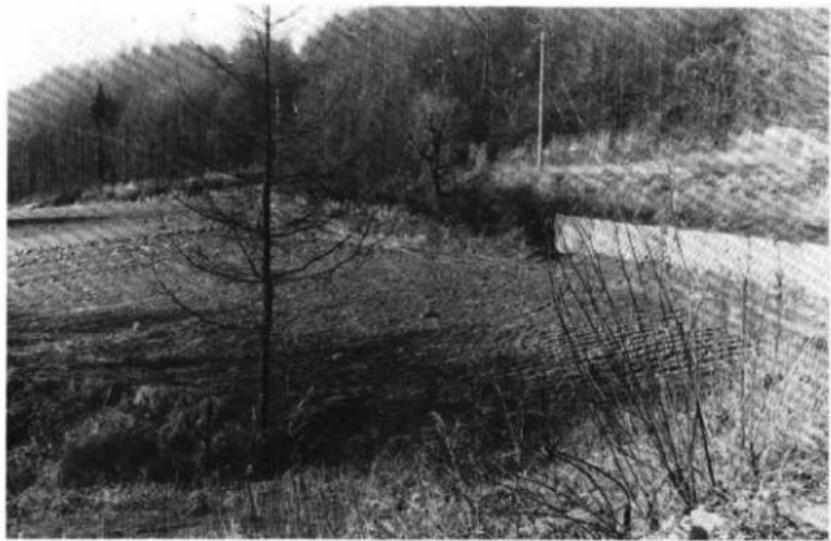


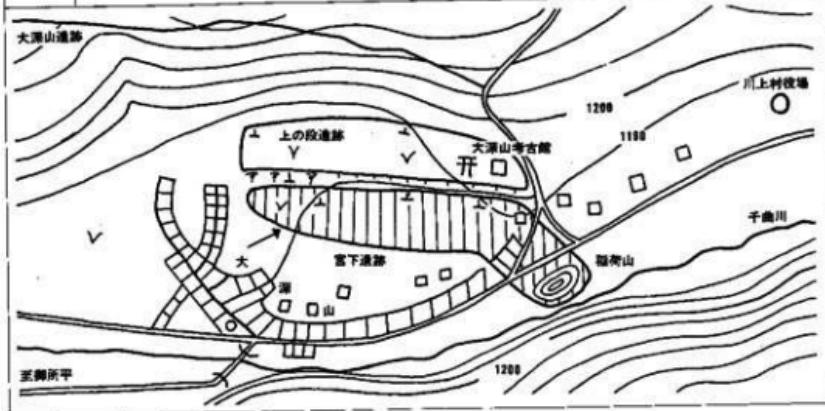
遺跡番号	34	遺跡名	花の木沢	遺跡の種類		包蔵地	部落名	大深山
地目	畠	面積	1,000m <sup>2</sup>	時代	平安	調査年月日	58年11月21日	
所在地・土地所有者	花の木沢	地番	925	氏名	藤原正木	字名	地番	氏名

遺物	採集遺物	
	既出遺物	土師器（新津開三所蔵）
位置	大深山部落の裏山、比高100mの南面する山麓台地上に所在する。大深山遺跡の東方約200mにあり、標高1,290mである。遺跡範囲は大深山遺跡に通じる道路の下段の畠から道路敷にわたるものと思われる。道路拡幅の際に炉址が出たといわれる。	
地形環境		



34 花の木沢遺跡



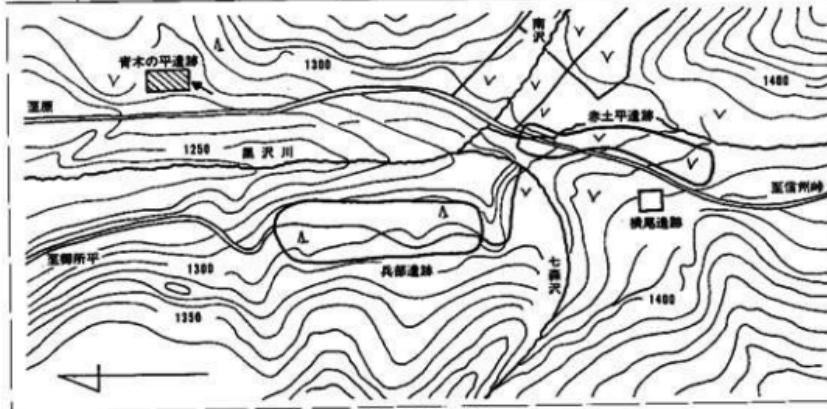


35 宮下遺跡



遺番 路号	36	遺跡名	青木の平	遺跡の種類		包藏地	部落名	原
地目	畠	面積	10,000m <sup>2</sup>	時代		先土器 平	調査年月日	58年11月18日
所在地 ・土地所有者	字名 青木の平 (通称中原)	地番 576-61 576-90	氏名 渡辺智徳 "			字名 地番 氏名		

遺物	採集遺物	
	既出遺物	ポイント(石質チャート) (渡辺智徳所蔵) 土師器(内面黒色を含む)破片 (由井佳幸・渡辺智徳所蔵)
位置		原部落から信州峰に迫じる道筋にそって黒沢川右岸、標高1,270mに位置する。西面する山麓緩傾斜地を削平して、現在は高原野菜畑となり、客土も行われている。南方約2kmの上流には赤土平遺跡があり、西南方黒沢川の対岸には兵部遺跡がある。道路ばたに樅の老木があり、馬頭観音の石像数体が建てられ、湧水もある。古来往来の人たちの休場に利用され、「青木の平」といって親しまれてきた。遺跡名はここからでた。
地形 環境		

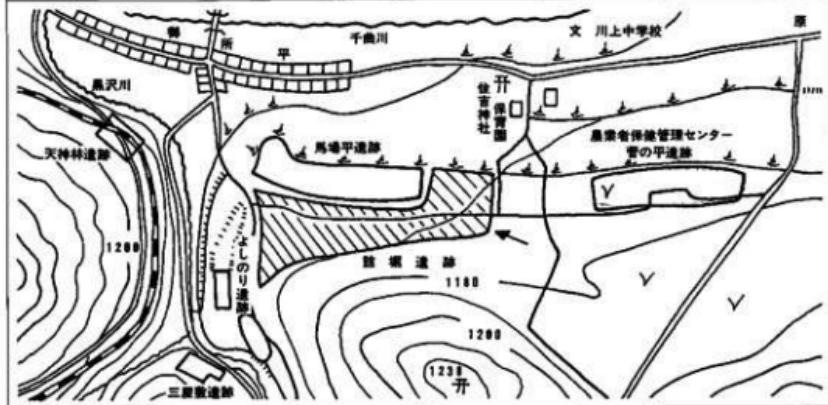


### 36 青木の平遺跡



下は青木の観音（林の中に石仏がいくつもある）

遺跡番号	37	遺跡名	詰堀	遺跡の種類		包蔵地	部落名	原
地目	畠	面積	15,000m <sup>2</sup>	時代	先土器 縄文・平安	調査年月日	58年11月18日	
所在地・土地所有者	字名 詰場 464-1 由井文治郎 464-2 由井信雄 464-3 由井文次郎 463 由井寅吉 465-1 由井延 466-1 由井勇 467-1 今枝義太 467-2 中島武志 468-1 今枝ゆかり 468-2 小池義吉 469-1 由井治雄 469-2 由井保雄 457-1 中島喜夫	地番 詰場 457-2 由井主計 475-2 由井美紀 479-1 由井勇之助 479-2 由井美夫 490-1 由井武次 481-1 由井義夫 481-2 由井勇之助 481-3 由井武夫 491-1 由井義夫 490-1 由井一邦 483-2 由井茂延 489-2 由井茂延 492-1 池田	氏名 詰場 457-2 新海六 475-2 由井主計 479-1 由井美紀 479-2 由井勇之助 490-1 由井義夫 481-1 由井勇之助 481-2 由井美夫 481-3 由井武次 491-1 由井義夫 490-1 由井一邦 483-2 由井茂延 489-2 由井茂延 492-1 池田	字名 詰場 492-2 由井茂延 489-1 494 495 496 498 499 501 503 504 505 506-2 506-1	地番 詰場 492-2 由井茂延 489-1 494 495 496 498 499 501 503 504 505 506-2 506-1	氏名 詰場 由井利治博 由井妙雅 由井重幸 高見沢武重 由井盛大 高見沢平 由井竹二 由井平 由井清幸 由井直		
遺物	採集遺物	水晶5・黒曜石9・チャート3・石鎌1・土師器1						
	既出遺物	ポイント・スクレーパー・ナイフ形石器・石鎌 (由井一昭・由井茂也・由井明所蔵)						
位置地形環境	御所平住吉神社の南方段丘上一帯にわたって、馬場平遺跡を東と南から覆うように存在する広範囲の遺跡である。もとこの段丘は馬場平遺跡の名で代表されていたため、詰場遺跡はごく小範囲のものとされていたが、今回は地籍図に基いて範囲を画定したので、馬場平遺跡の面積は小さく、詰場遺跡の面積が大きくなった。昭和28年発掘調査地点を中心にして遺物の出土は馬場平の方が密度が濃いが、詰場地区も全面に出土し、特にこの地区には水晶を主とした遺物をだす地点がある。							



37 詰堀遺跡



遺跡番号	38	遺跡名	麻瀬	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畠	面積	1,500m <sup>2</sup>	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名	
	麻瀬	161-1	山井敬作	麻瀬	151	由井正光	
		162-1	由井こはる		152	由井嘉	
		160-1	由井正文		149	由井こはる	
		159	由井敏一		147	由井章隆	
		158	由井章隆		148	由井辰治	
		157-135	中島浩		144-3	由井院	
		153	由井敬作				
		154	由井昭吾				
		156	由井武久				
遺物	採集遺物						
	既出遺物						
			縄文土器・打石斧・凹石・土師器 (山井明所蔵)				
位置							
			御所平部落から男橋を渡って、大藏峠に向かう県道の下に、これにそって東西に細長い。南面する小段丘上に位置する。千曲川との比高約10mである。段丘の西方には深山口遺跡が連続している。東方1kmの間には、大海道・御堂窟等の遺跡がある。				
地形							
環境							

38 蔊窯遺跡



遺跡号	39	遺跡名	浜場	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	畑	面積	20,000m <sup>2</sup>	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日
所在地・土地所有者	字名 浜場	地番 1,768-1 1,768-イ 1,768-ロ	氏名 由井二平 " " " "	字名 地番 氏名			
遺物	採集遺物						
既出遺物	縄文後期土器・石錐・石錐	(由井二平・吉沢時之助所蔵)					
位置地形環境	坪原の北端に位置する。東は段丘崖となり、比高100m、直下に御所平部落、信濃川上駅がある。西方一帯は広大な埋原で、切草・東森・唐沢・七久保等の遺跡が半径1km以内に散在している。遺物は耕作の間、特に最近の深耕等によって多く発見されている。段丘崖に湧水がある。						

